



2

0027292-000

特237-577

為替管理の運用と其影響

大久保一路・著

国際経済新報社

昭和7

ADH

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

254

333
490

久保一路著

爲替管理

の運用と其影響

||

高瀬書房版

時237
577

大久保一路著



為替
管理

の運
用
と
其
影
響

東京 高瀬書房發行



序

瑞典のグスタフ・カッセルと云ふ有名な經濟學者が次のやうに申して居ります。

「現在の世界不況や金本位の動搖は、何でも自分の財布を堅く護らうとする萎縮狂と、人に貸したものは出来るだけ速かに回収しやうとする清算熱の二つの大きな病氣から來てゐる。」

極めて簡単な云ひ廻しですが、非常によく真相を道破してゐると思ひます。各國が相踵いで、爲替管理や貿易制限を斷行しなければならなくなつた原因も正にそこにあります。

この二つの病氣の流行する所、新たな信用は起らず、資金の引揚げは續々行はれ、國內資本は安全を求めて落ちつかぬ。ために爲替は動搖常なく、商取引は萎縮し、

二
國際貸借にも自ら變調を來すに至ります事は既に吾々の充分經驗した所であります。各國はこの弊に堪えかねて、夙に種々なる對策を講じたのであります。我が國は最近に至つて、漸く爲替管理に關する具體案を得、この臨時議會に法律案として提出する事になつたのであります。

けれども爲替管理と云ふ事は、我國に於きましては、始めての經驗でありまして、どのやうな作用、影響があるものか呑み込んで居られない方も多しと思ひます。それで本書は出来るだけ諸外國の實例に基いて、平易簡明に爲替管理の本質、運用を説明したつもりであります。今後吾々の生活及び事業の上に、直接間接大きな作用を及ぼす爲替管理の内容を御理解下さる上に、御参考となれば幸ひと思ひます。

昭和七年六月

著者識

爲替管理の運用と其影響

内容目次

一、放任より統制へ……………	一
二、爲替管理の本質……………	七
三、爲替管理の諸方法……………	三
四、爲替管理の機關……………	一六
五、我國に期待さるゝ爲替管理の内容……………	一八
六、爲替管理の効果……………	二六
七、爲替管理の弊害……………	三九
八、爲替管理と世界の分野……………	四六

九、諸外國に於ける爲替管理の實際……………五三

A 獨逸の爲替管理……………五三

B 英國の爲替管理……………六三

C 伊太利の爲替管理……………六六

D 丁抹の爲替管理……………六九

E 瑞典の爲替管理……………七一

F 諸威の爲替管理……………七三

G 芬蘭の爲替管理……………七五

H 奧太利の爲替管理……………七六

I チエツコ・スロバキアの爲替管理……………八〇

J 希臘の爲替管理……………八三

K 勃牙利の爲替管理……………八四

L ハンガリーの爲替管理……………八七

M 西班牙の爲替管理……………八九

N 英領印度の爲替管理……………九二

O 南阿聯邦の爲替管理……………九五

P 土耳其の爲替管理……………九六

Q 智利の爲替管理……………一〇三

R アルゼンチンの爲替管理……………一〇六

S ブラジルの爲替管理……………一〇七

T 濠洲の爲替管理……………一〇九

十、貿易管理の得失……………一一〇

十一、貿易管理の種々相	四
十二、爲替及貿易管理と世界の貿易	一三三

附 録

一、統制經濟主義の畫頭	一三三
岐路に立つ世界財界	一三三
統制經濟下に於ける貿易、金融、生産	一三六
自由放任主義は修正される	一四一
二、國稅戰爭の行衛をさぐる	一四三
國稅戰爭熾烈	一四三
國稅戰は武力闘争以上に慘酷	一四四

國稅戰の迫る二つの道	一四七
鎖國經濟の氣運濃厚	一四九
三、國際協調回復の順序	一五二
鎖國經濟の矛盾	一五一
列國內部修正に眼を轉ず	一五三
自然は飛躍をなさず	一五六
協調回復の四つの順序	一五七

日本に於ける資本逃避防止法案

第一條 政府は内外の情勢により資本の内外移動を取締るため必要と認むるときは命令を以て外國通貨及外國爲替の賣買、外國に對する送金、外國通貨を以てする預金取引及貸借、外國通貨表示の證券その他の債權の賣買及び輸入ならびに外國居住者に對し信用を與ふる行爲を禁止または制限することを得

第二條 政府は命令の定むる所に依り前條の禁止または制限に關係ある事項に付報告を徴しまたは帳簿その他の検査を行ふことを得

第三條 政府は命令の定むる所に依り外國通貨、外國爲替または外國通貨表示の證券その他の債權を有する者に對しこれを日本銀行その他政府の指定する者に賣却すべきことを命ずることを得

前項の賣却價額は外貨評價委員會の定むる所に依る外貨評價委員會の組織及權限は勅令を以てこれを定む

第四條 本法に基きて發する命令を以て規定する取引又は行爲の禁止又は制限に違反したる者は三年以下の懲役若は禁錮又は一萬圓以下（若し當該取引價額の三倍が一萬圓を越ゆるときは當該取引價額の三倍以下）の罰金に處す、本法に基きて發する命令による外國通

貨その他を賣却すべき旨の政府の命に従はざる者は一年以下の禁錮又は當該外國通貨その他の價額の二倍以下の罰金に處す

本法に基きて發する命令に違反し報告を爲さず、虚偽の報告を爲しまたは帳簿その他の検査を拒みたる者は六月以下の禁錮または五千圓以下の罰金に處す

第五條 法人の代表者または法人若し人の代理人使用人その他の従業者がその法人または人の業務に關して前條の違反行爲を爲したるときは行爲者を罰するのほかその法人または人に對しまた前條の罰金刑を科す

第六條 本法の罰則は本法施行地に本店または主たる事務所を有する法人の代表者、代理人、使用人その他の従業者が本法施行地外においてなしたる行爲にもこれを適用す

【付 則】 本法は公布の日より之を施行す

【理由書】 近時本邦資本の海外流出の傾向に鑑み之が取締に關する法律を制定するの必要ありこれ本案を提出する所以なり

爲替管理の運用と其影響

— 諸外國に於ける爲替管理の實狀 —

大久保 一 路 著

一、放任より統制へ

世界不況は、一九二九年末に於て、早くもアルゼンチン、オーストラリアの幣制に動搖を來さしめましたが、更に昨年下半年に入りて、中歐一帶の經濟界が不安を増し來り、獨逸の財政經濟窮乏曝露に引續いて、之と財的に密接な關係にありと思惟せられた英國が多年の誇りを捨て、金本位離脱の餘儀なき狀勢となりましたので、こゝに世界の財界は、異常なる衝動を受け、信用貸借は地を拂ひ、金融市場に

於ける資金の回収、安全なる地を求むる資本の逃避は、一世の流行となり、これがために資金の海外流出止まず、多数の國々は續々金本位を停止するの止むなきに至りました。

金本位が停止され、爲替が低落すれば、國內財界が刺戟され、輸出貿易が振興すると云ふのは、これ迄の通説でありましたが、世界未曾有の大不況は、この通説の進行を許さず、殊に不況深化に伴ふて、世界の勢ひとなり來つた國際對立觀念の旺盛、自足經濟主義の擡頭の結果と致しまして、從來の國際經濟主義が、甚だしく圓滑を缺くやうになつて參つたのであります。

それがために、各國はやゝもすれば國際收支の均衡を失ひ、幣制の不安動搖を來す事多く、別して爲替が前途暴落を懸念され、動搖をはじめて來れば、對内對外一切の經濟活動は、非常なる障害を蒙り、國際貸借は急速度で惡化する事が、明々白々の

の事實となつて現はれて參りましたので、これをこの儘放任して置く事は、國家の存立上頗る危険であるとの議論が強調せられて參つたのであります。

こゝに於て、各國とも國際收支の均衡が失はれ、若くは貨幣制度の不安が募るや所謂爲替管理を通じて、輸入の増加を抑へ、爲替の投機賣買を戒め、國內資本の海外逃避を抑止し、爲替相場を安定せしめて、經濟界の混亂を防ぎ、かくして國際收支の改善を促し、金準備の減少を防止するに全力を注ぐに至つたのであります。

これは、要するに、現下の如き世界財界動亂の非常時に處して、最早や、資本主義的自由放任のみでは國民經濟が持ちこたへられなくなつた事を示すものであります。

然るに我國に於きましては、資金の流出滔々として止まず、輸入は徒らに増加し爲替動搖甚だしきにも揚らず、當局は「爲替は自然に落付くまで成行きに任せて置

「方針だ」と言明し、三月下旬に於ける如き貿易の大入超、爲替相場の亂高下に對
しましても、政府當局は次の如き態度をとつたのであります。

「今日の如き國際經濟狀況の下にあつて、爲替相場の下落は必至の事だ。かゝる
際その下落を阻止する事は無理な話で、放任するより他に方法はない。只だ反省し
て貰い度いのは、内外の經濟事情を見極めないで、必要以上に棉花や羊毛を思惑し
爲替下落の素因をなすと共に、手持品に自らも苦しみ抜くと云ふ愚を繰返さない事
だ。日本の國際的立場も漸次諒解されつゝある事だから、爲替相場も今日以上に惡
化する事はなからうが、今暫らくその推移を見る必要があらう。」
併し乍ら、四國の情勢は何時迄もかゝる無爲放任の態度を維持する事を許さなく
なつて來ました。

それは、前に大藏省案として、保證準備擴張説が海外市場に傳はつただけで、
我が對米爲替は非常なる動搖を來し、インフレーション豫想から、外貨公社債の買
付、その他の形式で海外投資をなすものが續出し、又圓價低落見越の輸入増加も見
られ、結局正貨喪失の動因となる可能性がある事が明かにされたからであります。
こゝに於てか、日銀當局その他財界有力者は、政府當局に對し、保證準備擴張
の前提條件として、爲替を不當に低落せしめぬやう適當な爲替管理を行ふ事を進言
したと傳へられてゐます。

今日の我が世論は飽く迄積極政策、非常時對策を望んで止みません。現下何れの
内閣が出現致しませうとも、この世論を無視する事は出来ずまい。瀕死の淵に喘
ぐ産業界、疲弊困憊のドン底にある農村に何等かの希望を與へ得る内閣でなければ
存立の價値がないと見て居ります。

さきに、大養内閣は、金本位を停止すれば必ず好景氣が訪れると宣傳しました。

併しそれから數ヶ月にして吾々は却つて痛切なる大養恐慌を経験したのであります。次の強力内閣は、これに對して何等かの對策を持つたものでなければなりません。併し手つ取り早く効果の現はれるものと云つては、積極的インフレーション以外には、天來の妙案もなさそうに思はれます。恐らく次の内閣も最後の切札をインフレーションに求めるものではありませんまいか。だがインフレーションと爲替暴落資金流出の關係は、既に試験済みですから、この點を修正するために、何等かの統制手段を用ゐる事になるでせう。

若し日銀の進言を採用するにせよ、日銀保證準備の擴張を中心とするインフレーション政策に着手すると共に、政府權力の作用を以て、正貨保有を維持し、爲替相場の下落を防止し、一方不況救済の利益を擧ぐると共に、他方資本逃避の不利益を除かんとするものと思はれます。

この政策に對する可否の議論に就ては、追而述べますが、兎も角何れの内閣が現はれませうとも、現下の經濟情勢の下に於て、自由放任主義で臨む事は不可能でありますから、資本の逃避に對し、爲替動搖に對し、適宜の手段を講ずる事は、止むを得ない成行と思はれます。

そこで吾々は、何れ行はるゝであらう所の、爲替管理とは果して如何なる本質のものであるか。具體的に如何なる効果が現はれるか、各國の先例はどうか、こう云つたやうなやがて當面すべき實際的諸問題に就て、篤と考へて見る必要があらうと思ひます。

二、爲替管理の本質

爲替管理が、どう云ふ目的と使命を以て行はれるものであるかと云ふ事は、「前

の項に述べた所で大體の輪廓はお解りの事と思ひますが、これを今更めて一口に云つて見ますと、所謂「爲替管理」とは、外國爲替の自由賣買を禁止し、之を政府の命する機關に統一し、その取引を制限し、統制する事である。」と云ふ事が出来ませう。その目的とする所は、或は國際收支の均衡を得しむる點にあるものもあり、或は通貨安定にあるものもあり、又資本流出を防止せんとするものもありませう。これら總ての利益を併せ納めんとするものもありませう。

今これらの事項を便宜上一つの表にして見れば、大體次のやうに分けられると思ひます。

一、爲替動搖の防止

二、自國資本の輸出防止

(イ) 資本の國外逃避防止

(ロ) 輸出代金の留置防止

三、外國短資の引上防止

四、貨物の輸入制限

五、前四者の併用

然らば我國の現状からして、爲替管理を必要とする理由はこの中の何れであるかと云ひますと、それは無論第五の併用に該當するのですが、當面の理由と致しましては、第二 逃避資本の防止と第一の爲替動搖の防止にある事は疑ひありません。現在我國は、金の輸出禁止をして居りますから、國內の資金は金其物の形では流出致しませぬが、貿易入超の決済及び外貨邦債の買付等の形式で、資金は依然流出を續けて居ります。

さなきだに資金缺乏で萎縮して居る我國としては、この形勢をこのまゝ打捨て、

置くわけには参りません。

殊に昨今インフレーション政策見越からして、圓價值低落に依る損失を免れる手段として、資金の海外逃避が頻々として行はれ、インフレーションの掛聲と資本の現実的逃避の兩作用から、爲替相場は低落しつゝあります。

若しこの際に當つて、我財果が何等か金融緩和の手段に出でるか、或は更に進んでインフレーションを實行する事にもなれば、國內物價の暴騰により、景氣を一時的に煽動する事は出来るかも知れぬが、そこに資本の逃避と云ふ抜け道がある限り、經濟活動は更に強度の萎縮を伴ふ事は避け難く、結局インフレーションの悪結果のみを残す事となるでありませう。そこでこの悪結果を防ぎ、インフレーションを効果的に行ふためには、どうしたら宜しいか、それには先づこの資本流出の抜け道を豫め塞ぐ事が必要になつて來るのです。この方法がつまり爲替管理なのであります。

す。

尤も爲替管理は常に必ずしもインフレーションの遂行を効果的ならしむるために行ふものではありませんが、併し尠くともその國から資金が流出して、經濟活動を萎縮せしむる結果を避くるために利用されてゐる事は明かです。そして資金流出に伴ふ爲替相場の激落乃至は不安定を防止する手段として用ゐられてゐる事も確かです。

この點は、獨逸のやうに金本位を維持しながら、爲替管理を行つてゐる國に就て見るとよく解ります。

金本位國が爲替管理を行ふ事に就ては、兎角の議論もありますが、併し現實の問題として、爲替相場の安定を維持し得る點に於て、獨逸のやり方が極めて効果的である事は疑ひないと思ひます。獨逸は歐洲戦後の大インフレーション時代のにがい

一三
經驗を忘れませぬから、國內的に容易にインフレーションを起こそうとしませんが、併し常に如何なる犠牲を拂つてとも國際收支の改善を圖らんとし、資金不足に基く經濟活動の萎縮を防止せんとして、徹底したる爲替管理を講じてゐる事は注目しに値すると思ひます。

三、爲替管理の諸方法

爲替管理の實行に就ては、その範圍、その手段、多種多様であつて、且つ同一手段を採るものの中にあつても國情により取扱機關によつて、その手加減程度は全く異つてゐますが、今法律上爲替取引に對して加へられてゐる制限の範圍によつて管理の方法を大まかに分けて見れば、次の通りであります。尤もこの表は私の獨創に成つたものではありませぬ。ミッドランド、バンクの月報へ出たものへ多少の修

正を加へたものですから、そのおつもりで御覽を願ひます。

一、外國爲替取引に制限を置くも、輸入は制限せざるもの。

イギリス(但一九三二年三月三日撤廢)イタリー、デンマーク、ギリシヤ、英領印度(但一九三二年一月三十一日撤廢)アルゼンチン、チリー、ウルグアイ
南アフリカ

二、輸入爲替取引に制限を設くるもの。

チエツコ、スロヴァキア、ユーゴスラビア、ブラジル、オーストラリア

三、或種の輸入品に對し外國爲替の取組を禁止するもの。

ブルガリア

四、必需品の輸入に對してのみ外國爲替取引を許すもの。

オーストリア、ハンガリー、フィンランド、ラトビア

一四
五、輸入を制限し又は輸出貿易を官營として、外國爲替取引を抑制するもの。

ロシア、エストニア、スペイン、トルコ

六、政府が外國爲替取引を抑制するもの。

ドイツ

爲替管理の法制上の緩急にも右の如き程度の差があり、イギリスの如き極めてゆるやかなものから、獨逸の如き徹底的なものまであります。その中にも各國を通じて一般に行はれてゐる方法を拾つて見ますと、大體次のやうな條項を數へる事が出来ます。

1 爲替取引の内容を逐一申告せしめて、之に許可を與へる方法——これは可なり廣く行はれてゐます。

2 爲替取引を實需取引のみに制限し、理由なき取引、投機取引、先物取引を禁

ずる方法——これも一般に行はれてゐます。

3 輸入代金支拂に要する外貨賣出しに制限を設け、割當額を定めて統制する方法——これも相當に行はれてゐます。

4 輸入品の内容を調べ、必需品を先づ許可し、自國に生産する品や奢侈品は嚴重に制限し、かゝる取引による爲替申込に應じない方法——これも可なりポピュラーな方法となつてゐます。

尙ほ、爲替相場の動きに就て、これらの爲替管理國は如何なる態度方法で統制してゐるか云ひますと、亂高下を避け、不安なからしむるために、公定相場を定めてゐるものもありますし、目標をきめて調節してゐるものもあります。特にかやうな方法を用ゐず、財政並に國際貸借の好轉を主眼とし、金融政策の緩嚴によりて、爲替相場の安定を企圖してゐるものもあります。

四、爲替管理の機關

爲替管理をつかさどる機關に就て見ましても、國によつて、色々のものが活動して居ますが、これは大體に於て、四つに大別する事が出来ると思ひます。

一、政府自ら統制の任に當るもの。

即ち、爲替取締りの權限を大藏大臣とか貿易省大臣に與へて、中央銀行その他の特定機關を通じて一切の爲替取引を統制せしむるものである。——イタリー、デンマークはその例であります。

二、特別に管理委員會を設けて、之に當らしむるもの。

即ち爲替管理委員會とか、管理局を設けて、之に爲替取引一切を獨占せしむるもので、——トルコ、アルゼンチン、智利、獨逸はその例であります。

三、中央銀行をして、専ら之に當らしむるもの。

ハンガリー、チエツコ、スロバキア、希臘、ラトビア、英領印度、ブラジル、ウルグアイ、コロンビア等その例であります。

四、中央銀行と普通銀行との協定によつて行ふもの。

即ち中央銀行若くは爲替銀行が他の組合銀行其他の金融業者と協定申合せをなし、互に爲替取引調節の實を擧ぐる事に努力するものである。——イギリス、瑞典、挪威、芬蘭、南阿聯邦、ベネズエラ、等その例であります。

右四種類の優劣得失に就ては、色々云爲する人もありますが、併しそれは總て時の勢ひと國情によつてきめられる事で、輕々しく斷案を下すわけには參りません。この點は前の爲替管理の方法に就ても同様だと思ひます。

爲替管理の運用と諸機關の活動に就ての詳しい事は、後述「諸外國に於ける爲替

管理の實際」に於て、述べさしていたゞく事にしまして、こゝでは單にその輪廓だけを御承知置き願ひ度いと思ひます。

五、我國に期待さるゝ爲替管理の内容

我國に於て、爲替管理を實施しなければならぬとの議論は、昨年末金本位制を停止しました時分から論せられておりましたが、最近に至つてこれが漸く世論となり、政府當局を動かすに至つた事は、前に述べた通りであります。

玆て我國に於きまして、外國爲替管理を實施すると致しまして、如何なる方法と程度に於て行ふのが宜しいか。フアツシヨ運動が流行し、統制經濟主義が世の風潮であるからと云つて、今直ちに嚴重なる爲替管理を實行したならば、産業、貿易、財政、ひいて國際收支の上にも果して良好なる結果を來すであらうか。さればとて、

あまりに緩に過ぎて單に當事者のモラル、サツポートに期待すると云つたやうな程度のもものでは、闇に跳梁する黄金魔に對して心許ない。これらの點に就ては、十分の検討を要すべく、深慮の上最も現時の經濟界の實情に適應するものでなければならぬ事は云ふまでもありません。

諸外國に於て實施されてゐる方法を適用するに致しましても、その取捨選擇は餘程慎重を要すると思ひます。また政府の統制宜しきを得たとしましても、同時に爲替銀行、民間の金融業者、證券業者、貿易業者の協力、支持を得なければ、満足な結果を期待する事は出来ません。

それでは、我が國の現狀に處して、如何なる爲替管理を實施するが適當かと云ふ事になりますと、日本がこれから行はんとする爲替管理の目的が、主として逃避資本の防止にあるか、爲替相場の安定にあるか、將た又適度のインフレーションを刺

載する點にあるかによつて、議論が色々に岐れて参ります。

之を單に逃避資本の防止にありと見るものは、「政府が資金の海外流出を防止する程度に於て、爲替管理を行ふ事は妥當である。尤も爲替管理を徹底的にやらうとするのならば、或は貿易管理と云ふ事も必要にならうが、併しそれをやつては、只さへ不振を極めてゐる貿易を一層萎縮せしむる惧れがあるから、それは今の處やらぬ方がよからう。まづ投資管理と云ふ程度のものならば、弊害もなくてよからう」と主張するに對して、インフレーションの前驅と見るものは、「インフレーションは警戒せねばならぬが、インフレーションになつて來れば、物價が騰貴する。これは産業界にとつてインフレーションの初期に於ける良い効果である。併しこれも折角増加した資金が海外に出るやうでは何にもならぬ。インフレーションの良果を維持するためには是非共資本の逃避を防がなければならぬ。商品輸出の経路に依つて出

て行く資本をも引止める方策として、貿易管理にまで徹底する必要がある。」と云つて居ります。

また爲替方面に着目するものは、「爲替管理をやる位ならば、寧ろ貿易管理にも手を延ばして、爲替の低落、資金の流出を徹底的に抑止するのでなければ、何等の効がなく、若し爲替の低落を防止する必要がないものだとすれば、何も爲替管理など面倒する必要もあるまい。單に資金の流出を防止する爲めならば、適當の税金を課すれば足りるではないか。」と云ふのであります。

政府當局によつて、現に企圖されてゐる爲替管理案の内容は、まだ明細に發表されてゐないので、これを議論の材料とするわけには行かないが、併し去る五月二十四日の定例閣議に於て、高橋藏相が近く實施すべき爲替管理法案の骨子として説明したと紙上に報導せられたものは、大體次の如きものであります。

(註) 本書上梓間際に至り、爲替管理の正案が、資本逃避防止結案の名稱の下に、衆議員に提出されましたから、巻頭目次の直ぐ後に掲載して御参照を乞ふ事に致しました。

爲替管理の大蔵省原案

一、法律の名稱 内外資本の移動取締に關する法律案

一、内容

第一條 資本輸出を目的とする外國爲替、外國貨幣、外貨證券の賣買及び信用

狀の發行に對し大蔵大臣は必要ありと認むるときは命令の定むるところに

よりこれを禁止または制限することを得

第二條 大蔵大臣は必要ありと認むるときは外國爲替、外國貨幣、外貨證券、

外貨預金等の所有者に對しその内容を申告せしめることを得

第三條 大蔵大臣は必要ありと認むるときは外國爲替、外國貨幣、外貨證券、

外貨預金等の所有者に對しその検査をなすことを得

第四條 右に關する大蔵大臣の命令に違反したるものは取引額の倍額以下の罰金

又は三年以下の禁錮に處す

これで見ますと、四つの條項から成つてゐるやうですが、その法律の名稱を「内外資本の移動取締に關する法律案」と致しました點から考へて見ましても、その眼目を逃避資本の取締に置いてゐる事は明かであります。そうして取締りに關する一切の權限を大蔵大臣に附與せんとするものであります。

かやうに大體の事情がわかつて參りますと、私共の觀察も樂になつて參ります。政府の意圖する所は、インフレーションの豫備行動でもなければ、爲替相場を無理に維持しやうとしてゐるのでもない事が解ります。

勿論これは成行きの問題でありますし、資本逃避と爲替、金融とは總て相關連し離るべからざる關係にあるのですから、逃避資本の取締と云つたからとて、たゞそれだけと見るのは、あまりに文字に囚はれた見解でありませう。

我國の實情に照して、外國爲替の需給を調節し、投機取引とか資本の國外逃ざんとなるやうな取引を禁止し、且つ輸入信用狀の發行にも手心を加へて、輸入爲替を制限し、外國爲替の賣買持高、相手方の素姓、需要の目的などを届けさせて、取締りの便に供する。更にこつそり網の目をくゞつて仕事をしやうとするものに對しては、時に帳簿検査をも行つて取締りの徹底を期そうとしてゐるものと思はれます。尤も、爲替管理を徹底的にやらうとするのならば、貿易管理まで進むべきだと思いますが、併しそこまで徹底的にやると、商賣が窮屈になつて、只さへ不振を極めてゐる貿易を一層萎縮せしむる惧れがある。これらの點は人によつて見解が色々異なると思ひますが、我國の現状に於て、最初の管理政策としては、この程度で大體よくはないかと思ひます。貿易管理の如きは、また今後の成行に徴し、二段三段の差策を講じてからでも遅くはありませんまい。

諸外國の實例に照し、完全だと思つて實施して見ても、國情が違へば、また色々豫想外の事が起らぬとも限りません。多少不徹底の嫌ひはあつても、行過ぎのない程度の所で實行し、その結果によつて緩急調節を加へて行くのが萬全であらうと思ひます。この點、獨逸が昨年七月以來、實に數多くの貴重な實驗を吾々に提供して居ります。

それに就ては、次項以下に於て詳しく述べやうと思ひますが、取締規則が愈々嚴密を加ふるに従つて、その上を行く脱法行爲も巧妙となり、さすがの獨逸政府も非常に苦しめられたのです。

それにつけても、爲替銀行、組合銀行、及び民間貿易業者、金融業者の一致したる支持、協力の必要、而して一般國民の時局と爲替管理に對する正しい認識の必要が痛感されます。

六、爲替管理の効果

爲替管理の効果の説く前に、先づその無用論から紹介しやう。

その一

「日銀保證準備擴張の條件として、爲替管理をしなければならぬと考へるのは全く現實の我財界の實情と世界財界の動きを知らぬものだ。」

吾々は何のために、金輸出再禁止を行つたか、それは此の世界經濟の嵐の中に立てる我財界を救ふためだ。金再禁止の目的は低物價の阻止、高物價への轉向にある。保證準備の擴張、制限外發行税の低減、何れも爲替をもつと引下げんためである。こんな所で爲替を安定しやう、そのため爲替の管理をやれなど、主張するのは、餘りにも我財界に對する見透しの足らぬ事を示すものだ。

近來統制とか管理とか云ふ事が流行するが、役人の力で經濟界に於ける物事を統制したり、管理したりして、それが巧く行けそうな筈はない。損すれば直ぐ血の出る當業者でもうまく行かぬ事が「仕事はこつちだ、損は國民の負擔だ」と云ふ役人の手で成功するなら、ロシアの共産政治の前に頭を下げる外はない。」

その二

「金の輸出禁止を行ひながら、爲替の安定を望む事は間違つて居る。又爲替の前途が不安で、更に低落すべき情勢にある場合、資本の逃避が起るのは當然である。政府が爲替の賣買や民間の在外資金の買入などやつたところで、根本の經濟政策が不眞面目であつては、到底その目的を達するわけには行かぬ。傳へらるゝが如く、今回の爲替管理はインフレーション政策實行の前提として考慮され、政府權力の作用を以て資本の逃避を防ぎ、正貨保有を維持し、爲替相場の下落を防止

しやうと云ふのであれば、これ明かに二個の矛盾せる政策を行はんとするものであつて、若し成功したとすれば喝采に値するであらう。

最近英國では爲替も強調に轉じ、資金も續々復歸して居る。これは何を語るか。云ふまでもなく國際貸借の改善、財政收支の均衡がその根本原因をなしてゐる。これに眼を閉じて、單に爲替政策の手先の運用で、その目的を達しやうとするのは。本末顛倒も甚しい。」

以上は我國に於ける所謂インフレーションとデフレーションとの兩方面から爲替管理に向つて發せられた警告であります。兩者夫々の理論をもつて居る事は首肯しなければなりません。だがこれらの議論を聞くまでもなく、財政と貿易の方面に妥當なる改善方法が行はれてゐるならば、資本逃避の問題などは最初から起らない筈であります。これらのものを悪化のまゝに放任すればこそ、圓の將來も悲觀

され、その間に資本の逃避や投機者の乗すべきすきが出たのです。それ故に、その根本に對して何等の施設を行はずして、その結果として生ずる資本の逃避を追ひかけるのは、泥繩のそしりを免れませぬ。この點何と云つても爲政者の責任を問はるべきだと思ひます。

併し乍ら、こゝに吾々の考へなければならぬ事は、日本の經濟界の現狀に於て、イギリスが赤字驅逐のために行つた大増税、ドイツが財政、金融、爲替、貿易均衡のためとつた強行政策をそのまゝ、日本に行ふ決心と手腕ある爲政者があるかどうか。又井上準之助氏程度の緊縮政策に悲鳴を上げた國民が、更に大規模の均衡政策、大増税に甘んじて堪へ得るであらうか。こゝに大いなる悩みがあるのです。

今日、我國に限らず、多數の國々が目的として居る所は、國際收支を何とかして一日も早く改善し度、財政の赤字を驅逐して、一國の臺所を明るくし度、と云

ふ點にあつて、これが達成のために、金融政策に、通貨政策に、爲替政策に、或は輸入制限、關稅政策に、夫々適宜の方法をとつてゐるが、豫期の結果はなかく得られない。さればとて、資本の國外流出、輸入の増加をそのまゝにして居てはたまらない。こゝに當面焦眉の手段として直接對外爲替取引を管理し、投機者流の横行に備へ、資本あつて國家なき徒輩の跳梁を取締り、いはれなき國內資本の逃亡を制する事は、必要の對策であらうと思ひます。

これだけの前置を以て掲題「爲替管理の効果」の本論に進む事に致しませう。先づ第一に爲替管理によつて、果して資本の逃避が防げるかどうかを吟味して見ませう。

これに就ては、今申上げたやうに、爲替管理は決して時局對策の根本策ではなく單に當面の對策に過ぎませんから、そのほんとうの効果は、國際貸借の改善、財政

收支均衡の根本策と相伴はなければ、容易に期待し得るものでない事は云ふまでもありません。

イギリスのやうに根本策が確立し、環境が好轉して來ますと、極めて自由な爲替管理でも、立派に目的が果されますが、それが獨逸となりますと、戦後の經濟情勢の然らしむる所とは云ひ、緊急令の雨を降らしても、容易にその實績を擧げる事が出來なかつたのです。

獨逸に就ては、後に詳しく申し上げますが、世界中最も徹底した爲替管理をやつてゐます。その取締りは政府直轄の許に管理局が之に當つて居ます。だが、取締りを嚴重にすればする程、法網をくぐる事も上手になつて參りますので、政府も閉口したのです。海外投資のために、個人が爲替を買はふとする場合、これを差止める事は簡單のやうで、實はなかく容易でない。賣買双方共これを政府に届け出なければ

はどうするか。

又輸出商が商品に荷爲替をつけて輸出した場合は、その爲替の賣買を比較的簡単に取締る事が出来るが、無爲替で送つてその代金は之をそのまま外國で代金を取立て、之を外債買入その他に運用した場合はどうなる。獨逸政府が取締りに一番困つたのはこれでした。そこで智慧をしばつた擧句生れたのが本年二月十九日發布の條令でした。これによると、「輸出商が外國の輸入商に對して有する爲替以外の債權に就き、ライヒスバンクはその輸出商に對して、これが取立を自行に委託すべく要求する權限を有する。」と云ふのであります。

これは無論獨逸が既に爲替管理と併行して貿易管理を行ひ、輸出貿易に就ては悉くこれを政府に申告させてゐましたので、これを利用して輸出貿易代金にして、未回収のものは、ライヒスバンクが輸出商に代つて取立をしやうと云ふのです。これ

は相當取締上の効果があつたやうに聞いて居ります。

けれども、まだこれで充分と云ふわけには参りません。その輸出商品の見積り價格が問題です。輸出商が商品の實價を正直に申告してゐるか。従つて代金全額が回収されるかどうかも見極めねばなりません。實に取締りと脱法行爲とはラリーを演じて深刻を加へるのです。

かやうに見て参りますと、爲替管理を完全に行ふと云ふ事は、非常の難事である事が解ります。又これを徹底的に行ふとすれば、どうしても結局貿易管理にまで結びつけるのでなければ、その目的を達成し得ない事も明かです。

けれども、輸入制限とか割當の如き貿易管理にまで進む事は、貿易を一層窮屈にするばかりでなく、方法を誤れば、角を矯めて牛を殺す結果に陥らぬとも限りませぬので、それはまた今後の成行を見て決せられるやうにと思ひます。

それでは爲替管理は無力で行く價値がないのかと云ひますと、なか／＼そうではありませぬ。前に掲げた爲替管理の大蔵省原案でもわかりますやうに、一切の外國爲替、外國貨幣、外貨證券の賣買は大蔵大臣の許可を受けなければならぬ事になつて居り、又、現に外國爲替、外貨、外貨證券、外貨預金等を所有して居るものは、その内容を申告する義務を課せられて居り、場合によつては帳簿検査までもやらうと云ふのであるから、従來行はれた弗買や弗預金は行ひ得なくなり、従てそれによる資金の流出、爲替の動搖は防がれるのでありませう。

又前記の原案によりますと、信用狀の發行にも何等かの取締りを加へる模様ですから、思惑品や奢侈品に對しては或る程度の統制が加へられ、爲替並に貿易の調節にも資し得ると思ひます。

管理法案の發布による精神的、道徳的反省の効果も見落すわけには行きませぬ。

殊に銀行團、金融業者、貿易業者の支持、協力を要求し、違反者に對して嚴罰主義をとるに於ては、可なり効果的なものがあらうと思ひます。

又現在一部に期待されてゐるやうに、公債増發、通貨膨脹の如き現象が起つた場合、外國投資を抑へる事も出来ませう。通貨膨脹で圓の先行不安と思つても、資金を海外へ持出す事が出来なくなりませう。従てこの遊資は止むなく國內に向つて處分される事になります。自然、國內の金融を圓滑にし、物價にも株式にも、當面の現象としてよい影響を與へる事になりませう。

次に第二の問題に移つて、爲替管理によつて爲替相場の安定を期待し得るかどうかを見ませう。

「金の再禁止をして、爲替を低落させただけでも、貿易は少しも好轉せず、寧ろ惡化するのみである。それは爲替相場の變動の甚だしい事が重大原因をなしてゐるの

だから、この際或る程度に爲替を落付ける事が大切である。そのために爲替管理を行へ。」と云ふ意見が一部に於て熱心に唱へられてゐます。

併し金本位を停止しながら、爲替相場の安定を望む事は、甚だ矛盾した期待であります。

たゞ政府の管理によつて、極端な動搖は防ぐ事が出来るかも知れませんが、爲替相場の安定は國內の投機者を取締つただけで防ぎ切れるものではありません。外國の有力な投機者、例へば我國としては紐育方面とか上海筋とかの投機を取締る事は到底出来るものでありません。それも日本に在外正貨が豊富で之等の投機者流の買入に對抗し得る實力でもあれば兎も角ですが、現在の資金涸渴の状態では、問題になりません。これら投機者に對して、取締りも對抗も出来ないとするれば、爲替の安定に對して、あまり期待をかける事はどうかと思ひます。

併しそう云つたからとて、爲替管理の効果が無いと云ふのではありません。これまで屢々経験した内地金融業者、貿易業者の態度に基因する爲替相場の動搖は、之によつて可なり立派に調節する事が出来ると思ひます。内地の爲替統制が出来れば海外市場にもよい影響を與へ、或る程度之をリードする事も出来るのです。日本が思ひ切つたインフレーション策をとつたとか、國際關係が悪化したとか、特別の原因が生じた場合は兎も角として、平生は日本の周章者が先づ動いて、海外市場に影響し、それが更に我市場に反映して、たらひ廻しの動搖を繰返すのが例でありますから、この點から見ても、内地市場の統制宜しきを得ると否とは結果に於て可なり異なるものがあらうと思ひます。

一部の論者は、「資本逃避のための爲替管理は、大部分失敗の歴史を繰返したに過ぎないのであつて、今我國に於て之に倣ふも、その結果は知るべきのみだ。」と申し

ますが、これも程度の問題でありまして、理想的にはそうかも知れませんが、併し皆様も御承知の通り、歐洲大戦が勃發致しまして、列國の國際貸借に激變を生じまするや、外國爲替關係は自ら大混亂に陥るべきを豫想されたのでありますが、幸ひにして各國とも百万人爲的管理政策を講じて、よく常規的相場を維持する事が出来たのであります。一九一六年末頃から獨逸、佛蘭西、埃太利、白耳義、伯刺西爾、物牙利、西班牙、芬蘭、希臘、伊太利、葡萄牙、羅馬尼亞、チエツコ、スロバキア等の諸國に行はれた外國爲替取締法はその實例であります。

然るに、一九一八年末に至りまして、假平和條約が締結されましたからは、各國は漸くこの管理を解き、自然の作用に放任するやうになりましたが、そうしますと戰中戦後に亘つて錯綜を極めた異常なる國際關係は、忽ち爲替市場に反映しまして其の騰落極端に奔り、殆ど従前に於ては夢想だもなし得なかつた程の混亂状態を現

出するに至つたのです。

これは、その後の深化せる事情にもよる事ですが、爲替管理政策の有無による影響を無視するわけには行くまいと思ひます。而も當時の爲替政策は、何れの國も單なる爲替管理の範圍を出でず、今日の如く輸入制限、貿易管理にまで徹底したる巧妙嚴重を極めたものでなかつた點から考へても、何等の效果なしとは斷する事が出来なまいと思ひます。

殊にその爲替相場安定の目標を無理に高い所に置かうとするのでなければ、相當程度の成果を期待し得られると思ひます。

七、爲替管理の弊害

外國爲替管理の制度は、もとく世界金融恐慌並にその結果として生じた外國

クレデットの巨額の引上げに基いて設けられたものでありますから、その採用してゐる管理方法は、國により異つて居りますが、之を概観すると、大體左の種類の爲替取引を制限せんとして居るものである事がわかります。

- 一、資本の輸出即ち對外授信及び債務の決済
- 二、輸入商品の支拂

何れも貿易取引の發展にはその自由を必然とするものであります。ですからこれらの取引が制限されると云ふ事になりますと、國際貿易は大なり小なり打撃を受けるのは止むを得ない事と思ひます。

これらの點に就ては、既に昨年末以來國際決済銀行の主唱で、専門家が攻究中だと傳へられてゐますが、最近巴里に開かれた國際商業會議所委員會が、爲替管理に對してなした決議が聯合通信によつて傳へられてゐます。その内容は次のやうなも

のであります。

- 1 各國の採用せる爲替制限方法は種々雑多であるが、資本の逃避及投機に對する制限は貿易に非常な障害とはならない。
- 2 然し嚴格に爲替制限を行ふ場合には、國際貿易が窒息されてしまふ危険がある。
- 3 爲替制限にとつて非常に危険で警戒すべき事は、産業貿易に政府が干渉し易い事である。
- 4 爲替制限には甲乙の債權者に對してのみならず、甲乙の國に對し差別待遇を與へ通商條約に違反する危険が多い。
- 5 國際金融不圓滑及不安を見越し、商取引の重要なる補助たる銀行信用が制限される。

6 尙先物取引に對しても銀行は便宜を手控へる、先物取引は爲替相場變動甚しき時は必要なものである。

右の決議は去る三月の同會議所理事會に提出されたと傳へられてゐます。

かくの如く、國際商業會議所では、爲替制限に對して、賛成を與へて居ませんのみならず、今日迄實驗せられた成績によると、表面上好成绩であるに反し、内部には好ましくない且つ危険な分子が含まれて居る事を警告して居ります。

併しこれは程度の問題でありまして、右決議の第一にもありますやうに「資本の逃避及投機に對する制限は、貿易に非常な障害とはならない」のですが、併し第二のやうに「嚴格に爲替制限を行ふ場合は、國際貿易が窒息されてしまふ危険がある」のです。だからと云つて、あまり取締りが緩に過ぎると、毒にも藥にもならないと云ふ事もありますので、當局者の手加減が餘程むづかしいと思ひます。

何と云つても、爲替管理政策は非常時に處する政策なのですから、總ての方面によい結果ばかりを期待するわけには参りません。

爲替管理のもたらす効果の蔭に、どんな弊害がひそんでゐるかに就ては、右の國際商業會議所委員會の決議で大體明瞭ですが、私は日本の現情に照して、も少し具體的に述べて見度いと思ひます。

第一我政府當局の意圖する爲替管理案は、資本逃避を目的とせない限り、純粹なる商取引に基く資本の輸出には制限を與へるものでないと云はれてゐますが、併し爲替の賣買は總て、大藏大臣の許可を受けなければならぬのですから、商工業者の營業の生命とする取引の敏活はどうしても妨げられる恐れがあります。

殊に爲替取組が、純然たる資本輸出か、貿易上の必需資金であるかの認定や、未回収の輸出代金が在外資金として据置かれる期間及び其理由の認定等に就て、當局

者の態度、手心などが重大な影響を及ぼし、それがために貿易を不必要に萎縮せしむる惧れもあり得るのです。

第二、爲替取締が嚴密を加へると、脱法行爲も巧妙になつて行く事は前にも述べましたが、大資本を擁し、あらゆる機關と設備をそなへた大資本家、大財閥になると、どのやうな取締りでも之を潜らうと思へば道はあるそうです。

最近の爲替管理下の獨逸の資本家は云ふまでもなく、大戦中の獨逸製鐵業者も、大戦直後のフランス銀行家も、近くは内亂渦中の支那に於ける浙江財閥も、皆この例に洩れなかつたのです。昨年秋以來屢々問題を提供した我國金融資本家の弗買問題もその一例に外ならぬのです。

資本は常に水の低きにつくが如く、安全な地位を求めて如何なる難關でも突破しやうとしてゐるのです。而してあらゆる機關を驅使して常に有利な地位に立ち得る

のは大資本家なのです。

かやうな大資本家の行爲を充分に取締る事が出来ず、鼻毛を抜かれて居るやうでは、折角法律を設けた意味がなくなるばかりでなく、中小資本家、貿易業者の怨嗟の的となる惧れがあります。

第三、對外投資を禁止すると云ふ場合、歐米方面への投資は明かに之を禁止すべきでありませうが、滿洲や南洋方面への投資は之をどう制限するでせう。殊に日滿關係の密接なる現狀に於ては、滿洲への投資は彼我の發展のために寧ろ獎勵すべきであり、之を禁止すべき理由はないのです。けれども亦之を無制限に許すとせば、大連乃至上海を経て弗や磅へ投資するものを如何にするか、問題になつて參ります。之を充分に取締るためには、繁雜な手續きをいとすあらゆる取引の成行を監視する程の用意がなければなりません。併し乍らあまりに監督が嚴重に過ぎては、往々

にして主客轉倒、角を矯めて牛を殺す結果を引起す惧れがあります。

第四、爲替管理は一度これを實施すれば、本質上知らず知らずの中に嚴重を加へ、産業、貿易の上にも統制の手を伸ばさなければ止まない傾向があります。又當局の手心、裁量の範圍が廣いので、情實を伴ふ危険を多分に含んで居ります。

かやうに爲替管理には種々なる複雑な關係を伴ふのですから、その取扱手續に就ては、餘程注意して、しつかりとやつていたゞかなければならぬと思ひます。

八、爲替管理と世界の分野

先頃、英國ミッドランド銀行の調査局は、今日尙ほ金本位制を維持して居る國と之を拋棄した國とを列挙し、前者は世界人口の約三〇%を包含するに止まり、他の七〇%は金本位制を拋棄したものと、銀本位國其他であると述べて居ります。

今試みに、世界に於ける法律上の金本位維持國を挙げて見ますと左の通りであります。

アメリカ、フランス、獨逸、白耳義、チリ、ブラジル、蘭領印度、チエコ、スロバキア、南阿聯邦、奧太利、瑞西、匈牙利、伊太利、ユーゴ、スラビア、リスアニア、和蘭、ラトビア、波蘭士、エストニア、ルーマニア

だが、これら諸國の中、眞に實質的に金本位制を維持して居るのは、アメリカ、フランスの二國だけで、他の諸國は辛ふじてその名目のみを抱いてゐると云つても決して過言ではありません。

次に、現に金本位を停止した國、又は拋棄した國、それから事實上金本位の行はれてゐない國を挙げて見ますと、左の通りであります。

法律上金本位停止又は拋棄國

英 國	兌換停止	一九三一・九・二一より
日 本	兌換停止	一九三三・二・二一
愛 蘭 自 由 國	金輸出禁止	一九三一・九・二六
オーストラリア	同	一九二九・二・一七
ポ リ ビ ア	兌換停止	一九三三・九・二六
アルゼンチン	兌換停止	一九二九・二・一九
コロンビア	金輸出禁止	一九三一・九・二四
デンマーク	兌換停止	一九三三・九・二九
ノルウェー	兌換停止	一九三一・九・二八
スウェーデン	兌換停止	同
ギリシャ	兌換停止	同
エジプト	金輸出禁止	一九三二・四・二六
ペルシャ	金輸出禁止	一九三一・九・二七

メキシコ	銀貨を強制通用力ある法貨とす	一九三一・七・二七
ニカラガ	金輸出禁止	一九三一・一・一四
フィンランド	兌換停止	一九三一・一〇・一三
ヘンリクス	同	一九三一・九・二二
パラグアイ
ウルグワイ
ポルトガル	兌換停止	一九三一・二・三〇
エクアドル	未解禁	一九三二・二・九
ニューギニア	兌換停止	同
スベイン	同	同
ブラジル	同	同

事實上金本位の行はれざる國

埃太利、ハンガリー、ブルガリア、加奈陀、チエコ、スロバキア、獨逸、ユーゴ、スラビア、ラトビア、土耳其、ベネヅイラ、ロシア

而して、これら諸國の中、爲替管理を實行するに至つたものは次の諸國である。

五〇

國名 年 月 日 備 考

イギリス	同	一九三二年九月二十二日	
イタリヤ	同	(但一九三二年三月三日撤廢)	
ノルウェー	同	九月二十九日	
デンマーク	同	十一月二十七日	
瑞 典	同	十一月十八日	
ギリシヤ	同	十一月十八日	
英領インド	同	九月二十八日	
アルゼンチン	同	(但一九三二年九月二十四日)	
ウルグアイ	同	(但一九三二年一月三十一日撤廢)	
コロンビア	同	十月十三日	
南アフリカ	同	八月七日	
チエコスロヴァキア	同	九月二十四日	
ポーランド	同	十月三日	
エストニア	同	十月七日	

外國爲替取引に制限を置く。輸入は制限せず。

ブラジル	同	九月二十八日	
オーストラリア	同	一九二九年十二月十七日	
チリ	同	一九三二年五月	
ポルトガル	同	一九三一年十一月三十日	
ブルガリア	同	十月十五日	
リビア	同	十一月	
ルバニア	同	十一月五日	
ベネズエラ	同	十一月十四日	
エカトラガ	同	十一月十四日	
オーストリア	同	十月九日	
ハンガリー	同	七月三十一日	
フィンランド	同	十月五日	
ラトビア	同	十月八日	
ペルシヤ	同	二月二十五日	
ロシヤ	...		
エストニア	同	十月二十四日	
スイス	同	五月三十一日	

輸入爲替取引に制限を置く。

或種の輸入品に對し外國爲替の取組を禁止す。

必需品の輸入に對してのみ外國爲替取引を許す。

輸入を制限し又は輸出貿易を官營として外國爲替取引を抑制す。

ト 一九三〇年二月二十八日
 ボ リ ビ ア 一九三二年十月一日
 ド イ ツ 同 七月十五日
 モラトリアム (一九三一・一一・一二撤廢)

〔註〕 1 爲替取引上の制限が漸を追うて設定せられた諸國に就ては表中の年月日は大體の推定である。
 2 チエツコ國以下は爲替管理以外に、更に摘要の如き制限を附してゐるものである。

即ち爲替管理國は、ヨーロッパの諸國殆んど全部及び中南米諸國の殆んど總てを網羅して居ると云つて差支へないのです。たゞその範圍、方法、程度が皆違つてゐる事は前にも述べた通りです。以下各國の實情に就て、詳しく申上げる事に致しませう。

九、諸外國に於ける爲替管理の實際

A 獨逸の爲替管理

昭和六年五月、塊地利の「クレヂット、アンシユタルト」の破綻曝露し、中歐財界の不安昂まるにつれ、之と密接なる關係にある獨逸の信用疑はれ、海外資本の逃避已まず、遂に七月獨逸に金融恐慌を見るに至つた。こゝに大統領は七月十五日緊急令を以て、外國爲替の取扱は一九二四年の爲替取扱法による旨を布告し、爲替管理に第一歩を踏み事となつた。

その後、英國が金本位を停止する迄の二ヶ月間に、六回に及ぶ緊急令の雨を降らして、外貨取引、有價證券取引、輸入輸出資本逃避の抑制等かなり嚴重な管理を行つた。

即ちこの六回に亘る緊急令を大づかみにすれば、爲替管理の眼目は、大要左の如くである。

- 1 外國爲替の定期取引はライヒスバンク或は同行の許可を與へた獨逸金融機

關とのみの取引範圍に於て爲替管理局は之れに承認を與ふべし、但し右の承認は輸出及通過貿易の目的に使用するものに限つて與へらるべし。

2 輸入はその買入が八月四日以前の契約に依つて爲されたるものはその證明書ある時は當分の内無制限に承認を與へらるべし。

3 爲替管理局は自然人又は法人にして商業登記を爲し當該商工會議所に於て平常正規の業務を爲し、外國へ支拂の必要ありとの證明書を與ふるものに對しては、若し輸出入又は通過貿易の必要上外國支拂手段を要する場合には從來の業務の範圍内に於て總括的に許可を與ふべし。

九月二十一日、英國金本位離脱の烽火揚がるや、獨逸も恐らくその後を追ふて金本位を停止するであらうとの噂は相當強かつたが、北歐諸國が金兌換停止を行ふに至つて、一層その疑を増す惧れがあつたので、九月二十八日ブリューニング宰相は、

獨逸の將來は確實に金本位に一連環として結び附けられてゐる旨を聲明し、右の風説を否定した。

同日ライヒスバンク總裁ルーター博士は、獨逸貯蓄銀行協會の會合の席上に於て、演説を爲したが、金本位維持を明確に斷言し、次の如く云つてゐる。

「多くの人は、英國が夫の強大な金融力を有して居ながら、斷乎たる行動を執つたのであるから、況んや貧弱な獨逸は、瘠我慢をして、金本位に執着する必要はないと考へるかも知れない。又海峽の彼方に、貿易恢復の刺戟が與へられたこと、その産業が新しい注文を受けつゝあること、負債辨済の重荷が軽減されたこと等の事情に誘惑を感じる人々が多くあるであらう。インフレーションを行ふ國々が、その國の生産原價が通貨價值の低下に適應しない故に、輸出貿易に有利な成果を受ける事實を或人々は指摘してゐる。それ等のことは正しく眞實である。而して獨逸は自

ら會てそれを經驗したのであつたけれども、同時に吾々は、その後に来るものが何であるかを經驗しなかつたであらうか。右の如き利益は、單にインフレーションの初期に於てのみ享受し得べきものであること、而して生産原價と物價が調整されるや、直ちに輸出貿易のプレミアムは消滅し去るものであることを吾人は忘却し去つたのであらうか。若し吾人が正當に物事を判斷する力を有つてゐるならば、獨逸の場合、原價並に物價は、直ちに騰貴し、従つて獨逸はインフレーションの初期に現はれる利益を享受することは殆ど不可能であることを確認せざるを得ないであらう。然りとすれば、新に初舞台を造り出さんとする要求は、無意味でなければならぬ。吾人の日々の麵麩にとつて、安定した通貨の維持は缺くべからざるものである。獨逸の對外負債の大部分は、マルクではない。金、弗及其の他の金本位國通貨である。而してその極一小部分が磅であるに過ぎない。對外負債が獨逸の債務の最も重

大な部分を占めてゐるのであるから、獨逸の債務に對して希望される輕減を金本位離脱に依つて得ることが出来ないのは明らかである。數十億マルクの對外債務は、今現状維持協定の制約の下にあるのである。マルクの價値が低落するとすれば、それだけ債務者の負擔を重からしめねばならないのである。」

右の二當局者の聲明に依つて、獨逸が金本位を維持する強い決心を抱いてゐる事は明確にされた。けれども、獨逸が金融恐慌以その貨幣制度を、凡ゆる努力と手段とを竭して維持し來つたことを顧ると、英國の金本位停止が同國の通貨の地位に直接にも又スカンデナヴィア諸國を通じて間接にも、與へた影響は決して輕視出来ない。獨逸は金融恐慌突發と同時に、數次に亘つて爲替管理を行つて來たが、英國が危機に襲はれて後、マルクを防衛する爲め、更に新なる警戒を必要とするに至つたことは、容易に相像出来る所であらう。

果して、九月二十六日政府は「現状維持協定の対象となるべき内國銀行及内國債務者、外國債權銀行及外國債務者間の債權關係は、總べてライヒスバンクの監督を受くべし」と命令すると同時に、政府令を以て、前述の爲替管理制を擴大して、ライヒスバンクの特許なくして、有價證券を外國人の注文に對して賣却すること、並に有價證券を外國人の勘定に振替へることを禁止した。

資本逃避が有價證券の移轉に依つて行はれてゐた故、之れを防遏せん爲に、右の處置が執られたのであつた。

十月二日には、更に左の如き緊急令が發布された。

1 獨逸國內に住居を有するものにして、十月二日現在二百馬克（從來は一千馬克）以上の外國通貨を所有するものは、十月十日迄に届け出でなければならな

る。

2 ライヒスバンク又は同行の認可を與へた銀行を通せずして獲得せる外國支拂手段は、其の高の如何に不拘三日以内にライヒスバンクに届出づるを必要とする。

3 ライヒスバンクの要求に従つて、右の外國支拂手段は同行に賣却されなければならぬ。

一般輸入商に一ヶ月二十五萬馬克、個人に二萬馬克以上の輸入を許可せんとするときは、外國爲替管理官は豫めライヒスバンクの承諾を得なければならぬ。

更に十月十三日附にて、ライヒスバンク取締會は次の如き聲明を爲した。

「一九三一年十月二日の外國爲替取締令に違反するものには、今後ライヒスバンクは信用を許容せず、必要と認める時は、割引及證券擔保附取引を拒絶するのみならず、更に右の如き商社の署名ある手形の買入れをも拒絶するであらう。」

ライヒス、バンクは、獨逸の現時の貿易受取超過より起る外國爲替の全部を獲得する目的を以て、之が確保のために、更に輸出の嚴格なる管理を行ふ計畫を建てた。それが十一月十七日の輸出爲替管理令となつて發表された。要領は次の如くである。

一、商品輸出に當り、輸出者はライヒス、バンクに、所定の書類を提出し、輸出品價格等を申告すること。

二、右代り金を外貨のまゝ保有する場合は、總てライヒス、バンクの許可を受くること。

三、輸出業者は、月三回、所在地管轄のライヒス、バンク本支店に對し、輸出手形を何れの銀行に交附したか、又は何れのライヒス、バンク支店に提出せるやを報告すること。

四、右違反者は重刑に處する。

ライヒス、バンクは、これがために特別局を設けて、申告に對する許可證を發行し、輸出商品の代り金の成行を精査し、輸出管理を實行することゝなつた。

この外國爲替管理は、十一月二十二日の緊急命令によつて、一層擴大強化せらるゝ所あつたが、然もそれにも拘らず、獨逸人中には、住所を外國に移し、所有有價證券を外國人勘定に移轉する等の手段により、租税の負擔を免れ、若くは資本逃避を企つるものがあつたので、之が防遏のために、十二月九日、左の如き緊急命令を發布せられた。

一、富裕なる獨逸人にして一九三一年中、獨逸を去り、他國に移住するもの少なからず、其多くは租税の負擔を免れんとするものなり、本緊急令は、かゝる非愛國者を取締る目的を以て、次の規定を公布す。

二、一九三一年四月一日より一九三二年末まで住所を外國に移したる獨逸人にし

て、二十萬マルクを越ゆる資産、二萬マルクを越ゆる年収入を有するものは、其資産の四分の一を「國外逃避税」として徴収す。

三、右に違反するものは、其者の財産を右國外逃走税、罰金、其他の費用の保證として差押へ、且國內にて何時にても逮捕し得べき租税逮捕状を發す。

本年に入りて、獨逸の爲替管理は、更に嚴重となり、二月十九日の緊急命令公布を見るに至つた。

一、外國より獨逸銀行に流入するマルク資金は別口勘定とすること、在獨外國人が、外國人勘定に拂込みたる資金に就ても同じ。

二、右勘定資金は、獨逸通貨管理局の認可したる輸入の代金決済によるものなること、又は外貨にて獨逸に受入れたるものなることを證明せざる限り自由に處分するを得ず、但し獨逸國內に於て、長期投資に充當する場合は、この限りに

非ず。

三、外國人が獨逸に有する財産、特に不動産の賣却により得たる資金及外國人が獨逸人より受けたる遺産は、證券賣却の資金と同じく獨逸へ再投資するか、又は別口勘定とすること。

四、外國人に對するマルク債権を以て、外國人に對するマルク債務の決済に充當する事を得ず。

B 英國の爲替管理

九月二十二日以来、イギリスは爲替管理を實行してゐたが、これは六ヶ月を限られてゐたので、本年三月初既に廢止されてゐる。

英國の爲替管理は、獨逸に比すれば極めて寛大で、政府が、規定の六ヶ月の間にその附與された權限を行使したのは、單に左の如き爲替思惑取締令を出したに過ぎ

なり。

一、英國民及び英國在留民は、今後外國爲替の買入れ、若くは資金の移動を行ふ事を禁ず。

二、但し、次の場合は之を除外す。

1 普通商業取引上の需要

2 九月二十一日以前締結せる契約

3 相當額の旅費若くは個人用の場合

即ち、爲替思惑以外の爲替の賣買が差支へ無のであるから、輸入爲替は勿論、債務の償還、利拂用の送金爲替も差支へない。

爲替取引制限の實行に就ても、獨逸が爲替管理局を設け、又ライヒス、バンク内に輸出特許局を設置したる等に比較し、極めて自由なる態度を採り、運用は一に政

府法案の旨を體して立つた金融業者の實行申合せに委せて、敢て干渉を加へなかつた。

倫敦組合銀行は、金本位停止の事態に鑑み、又スノーデン藏相が議會に於てなしたる希望に應じ、種々なる規約を設けて、爲替取引制限の實行に努力した。

而して、前述せる如く右の爲替管理の施行期限は本年三月二十一日を以て満了する事となつたが、政府は將來を慮り、大藏省に對して爲替取締りの権限を尙ほ一ケ年延長する案を下院に提出し、上下兩院を通過し、十七日裁可を得るに至つた。英國の環境は最近大いに好化し、資本逃避の恐れ薄らぎ、寧ろ資金の洪水に憐まされてゐる際、これは餘計な事だとの非難も出たが、藏相チエムパーレン氏は、之に對し、「今後金本位法第一條第三項(註)の必要が再來すれば、甚だ不幸と云はなくてはならぬ。而して今日の世界の狀勢はまだなか／＼樂觀を許さないのであるから、

更に繼續案を提出した次第である」と述べてゐる。

(註)

金本位法第一條第三項の正文は次の如きものである。

「大藏省は、金本位制停止より生ずる不便を除くため、外國爲替及び其他の事項に關し、適宜の處置を取る事を命じ、且つ隨時之が變更をなす事を得本項は本法通過後六ヶ月間を限り効力を有す。」

C 伊太利の爲替管理

英國の金本位停止後二週間は伊太利政府、大藏省及諸銀行はリラを世界的貨幣擾亂から救ふ爲の戰に終始したと云へる。

九月二十三日夕刻政府及伊太利銀行から一九二七年十二月二十一日公布政府令に依つて定められた安定率は何等の變革を興へられざるべき旨を聲明した公の聲明書が發せられた。スカンデナヴィア諸國が英國に追隨するや、直に九月二十九日ムツ

ソリニ首相は在外々交使節及各領事に急電を飛ばし、伊太利政府が一弗對十九リラと定めたリラの對外價值を變更せんとする意圖を有してゐるが如き風説を否認すべきことを命令した。

九月二十八日、伊太利銀行は公定割引歩合を 10% から 12% に引上げたが、同日大藏省令が發布され有價證券の定期取引に對し、左の制限が加へられた。

1 總べて有價證券の先物を賣る時は賣却された有價證券若しくは 95% の現金を預托しなければならぬ。

2 又總べて有價證券の先物を買ふには 10% の現金を預托しなければならぬ。右の制限令に依つて、投機取引は全く禁壓されて了つた。翌二十九日大藏大臣は外國爲替取引を取締る權能を興へられた。これに基いてファシスト信用聯盟は、同日各銀行に對し、

一、各行の保有外國爲替の明細を伊太利銀行に通告すること。
 二、各行は得意先の將來の爲替需要額を取調べ、在外資金を所有するとして知られたる者若しくは輸出品の代金として外國爲替を受入れる者に對しては信用を制限すること。

等の義務を課した。續いてまた左の禁止令を出した。

- 一、如何なる銀行と雖も、自行若くはその顧客の勘定で、外國市場で發行された外國或は伊太利有價證券を買入れるを得ない。
- 二、外國爲替を將來の日附に對して取引することは出来ない。
- 三、商業上若しくは他の是認し得べき理由を提示し能はざる顧客に對しては外國爲替を賣却することが出来ない。

伊太利政府は爲替取締以外に更に新關稅に依つて、リラを防衛せんとしてゐる。

即ち九月二十五日總べての輸入品に（従前無税たりしと有税たりしとに不拘）從價5%の新關稅を賦課した。新關稅の目的は一つには財政上のものであるが、同時にそれは英國其他の金本位停止國に對する一種の反動政策とも見られるものである。

D 丁抹の爲替管理

英國の金本位停止が傳へられるや、政府は九月二十二日金の輸出禁止を發表即日施行したが、二十六日政府及國民銀行は協議の上金本位維持に方針が決定された旨を聲明した。この方針に基いて同二十五日割引歩合を四分半から六分に引上げた。然るに二十七日に開かれた農業方面の代表者の會合で、金本位を拋棄しなければ英國への輸出を主としてゐる同國農業は難局に立たねばならないから、金兌換を停止すべしとの決議が行はれ、これに刺戟されて、二十九日遂に十一月三十日迄國民銀行の金兌換及金買上義務を停止すべき法律が發布された。此の法律はその後二回

亘つて延長され今日尙實施されてゐる。

七〇

而して同法案は、金の兌換停止と共に、四名の銀行委員より成る委員會を任命し、通貨及び爲替政策はこの委員會の同意を要する事とし、左記の諸項目を規定した。

- 1 國立銀行は、銀行委員會の意に基いて通貨政策を行ふこと。
 - 2 發券準備率を五〇%から三三・五%に引下げること。
 - 3 金本位停止によつて、利益を得たならば、それを國庫に納附すべきこと。
- 更に十一月十八日に至り、一の緊急令が發布され、次の諸項目が規定された。
- 1 外國爲替取引を特許銀行及び特許株式仲買人に限定する。
 - 2 國立銀行は特殊銀行、特許仲買人より受入れたる外國爲替を統制處分する。
 - 3 贅澤品及酒類の輸入を制限する。

次いで、十一月二十七日には、更に新爲替取締令が發布され、輸出に基いて生じ

た對外債權は、總て之を國立銀行又は指定銀行、指定仲買人に對して、コペンハーゲンに於ける建相場を以て賣却する事を規定するに至つた。

E 瑞典の爲替管理

英蘭銀行の金兌換停止と同時に、この國の投機者の活動が猛烈となり、瑞典銀行は外國に巨額のクレジットでも設定しない限り、難關の切り抜けが出来ないやうになつた。外國通貨に對する需要は急激に増加し、九月二十一日から二十六日迄の一週間に、瑞典銀行は約一億クローナーの金及外國通貨を失つた。同行所有の外國支拂手段の總額と略々等しい金額である。

九月二十八日、政府は別に告示することなき限り、十一月三十日迄瑞典銀行の金兌換義務を停止すること、(その後二回に亘り延長今日に至つて居る)その公定割引歩合を六分から八分に引上げること、金の輸出は瑞典國立銀行若しくは外國中央銀

七一

行以外に對して禁止することを決定した。

而して瑞典政府はその後引續く巨額の外貨需要及び之による爲替低落に鑑み、十一月十八日國立銀行をしてモデレートな爲替制限を實施せしむる事とした。

即ち國立銀行は市中銀行をして、毎日爲替の所要額、需要者の氏名、要求の理由等を記載した「リスト」を提出せしむる事とした。

また更に國立銀行と組合銀行との間には協定が成立し、輸入に對する信用にも統制が加へられる事になつて居る。

F 諾威の爲替管理

諾威の財界は、英國の金本位停止によつて豫期されてゐた程には動搖しなかつた。諾威銀行も即刻金本位を停止すべきだとの説もあつたが、當局は敢て之に耳をかさぬものゝ如くであつた。たゞ九月二十五日に至り、割引歩合を五分から六分に引上

げたが、市場には格別影響を興へなかつた。

然るに二十八日に至り、閣議は突如として諾威銀行の金兌換義務を一時停止し、同時に如何なる形式に於ても、金の輸出を禁止すべきことに決定するに至つた。而して同日諾威銀行は割引歩合を六分から更に八分に引上げた。(割引歩合はその後十月七日七分に引下げられ、更に同十七日六分に引下げられ、今日は五分の低率を示してゐる。

之と同時に、爲替相場の動搖防止と、國際收支の均衡維持の必要から爲替制限が要望され、諾威銀行その他の銀行の代表者より成る爲替問題中央委員會が設置されるに至つた。外國爲替取引に對する取締りは總てこの委員會の手によつて行ける、事となつたのである。

即ち諾威に於ける輸入業者は海外に注文を發する前に、先づその明細を取引銀行

に通告し、諸銀行の代表者より成る右委員会の精査を受ける事になつてゐる。

七四

G 芬蘭の爲替管理

スカンデナヴィア諸國が金本位を停止するや、九月二十九日芬蘭銀行總裁は、同行は之れ等諸國の例に倣ふ意志の全くないことを聲明した。芬蘭はスカンデナヴィア諸國の如き壓迫を國際金融界から受けないことを理由として掲げた。

けれども、英國は芬蘭の主要な得意先であつて木材、バルブ、紙、パタ等を輸入してゐる。而して瑞典、丁抹、諾威等は芬蘭の強力な競争國であるのであるから、之れ等諸國の爲替相場の低落は、芬蘭の貿易を窮地に立ししむることになるのは止むを得ない事であつた。

十月一日に至つて公定割引歩合は、六分から七分半に引上げられた。金輸送點を割つてゐる諸國爲替に對する需要が非常に増加したので、金本位は脅威された。併

し銀行家達は不換通貨の流通は同國の金融界を混亂に陥れるものであるとし、金本位の拋棄は最後の手段として執らるべきであることを主張した。

十月五日爲替投機取締りに關する一九二二年の法律を一時復活せしむべき政府令が發せられた。

一九二二年の法律とは、藏相の監督下に通貨局を設置し、外國爲替管理を行はしむるもので、その骨子は次の如きものである。

- 1 外國通貨は唯だ通貨局の許可ある場合にだけ購入し得る。
- 2 外國からの支拂は、通貨局の特別許可なき限り、芬蘭マルカで受入れる事を許さぬ。

3 芬蘭への輸入品に對する支拂ひも芬蘭マルカで支拂ふ事を許さぬ。即ちこの法律の復活によつて、芬蘭銀行は芬貨輸出防止の爲に外國爲替取引を總

七五

べて統制する権限を與へられた。

芬蘭銀行は市中銀行と協力して、輸入業者に對し輸出業者の損失を補はしむる爲めに、不利な爲替相場を與へることに決定した。佛蘭西銀行及紐育聯邦準備銀行は芬蘭銀行に對し、必要に應じクレヂットを許容すべき旨内諾を與へた旨公式に聲明された。

然るに十月十二日に至り、芬蘭銀行重役會に於て、一時金本位を停止すべきことが決定された。

II 塊太利の爲替管理

英國の金本位停止は塊太利に深刻な印象を與へ、異常な不安を惹起した。けれども間もなく世論は鎮靜した。國民銀行當局はその在外正貨は比較的僅少ではあるが、さして大なる需要が豫期されないとの意見に到達した。同行の見解に従へば、同國

と英國との經濟的關係は最近一時程密接ではなくなつてゐる。英蘭銀行から借入れた一億五千萬シリングの中五千萬シリングは既に返済された。同國の對英債權は殆ど問題にされ得ない額である。然し國民中英國の確定利附公債及國際聯盟借款の英國發行分を有つて居る者が相當に多いのであるから、或程度の損害が見込まれねばならない。

九月二十一日、政府は國立銀行及各銀行に外國爲替の賣却を禁じた。又個人が外國通貨を買取することも禁止した。同日は外國爲替の市場取引が行はれなかつた爲、諸銀行は磅を全然買はなかつたが、二十二日の磅相場は金本位停止前の三四・二分の一シリングに對して、二九乃至三〇シリングを唱へた。此處に興味ある事實は、同日可成り巨額の英蘭銀行券が買取られたことである。それは磅の安定性が信頼されて居た爲め、英蘭銀行券が貯蓄者の手に死藏されてゐたことを物語るもので

ある。

英蘭銀行及び國際決済銀行から借入れた一億九千萬シリングの外國支拂手段を發行準備中に繰入れてゐることは、種々な風評と不安とを生じた。十月七日現在の同行金保有高は一億八千九百五十萬シリング、發券準備とされる外國爲替は一億千二百三十萬シリング、外に所有する磅及弗爲替五千七百萬シリングを示してゐるのであつて、右の一億九千萬シリングの借入金は實に重要な地位を占めてゐたわけである。之れを辨濟することは同行の金準備の地位を動搖せしめるものであり、従つて何等かの形式に於て此の借入金の期限を延期することが必要とされて來た。

即ち十月九日に至り、「一般爲替管理令」が發布され、外國爲替取引は總て澳太利國立銀行と其の指定代理銀行に限らるゝ事となつた。

尤も事實上に於ては、國立銀行はそれまでの十數日間にあつても既に外國爲替の取引には證據書類の提出を要求したり、商取引關係のものにあつても、輸入業者の需要の僅かに二%の外國爲替を賣渡してゐたに過ぎなかつたのであるが、之によつて愈々本式に爲替管理に乘出すに至つた。

十月九日の爲替管理令の骨子は次の如くである。

- 1 外國支拂手段の取引は、總て國立銀行及其の委任者に限定する。
- 2 海外に對する送金、信用の許與、貸付及び保證を制限する。
- 3 外國爲替相場は、國立銀行の公定相場による。それ以外の相場は禁止する。
- 4 一切の對外取引は、總て國立銀行の許可を要する。
- 5 五百シリング以上の外國支拂手段や外國預金を取得したる場合には、國立銀行に届け出でを要する。

而して国立銀行の取締りは昨年未に至りて、一層嚴重となり、国立銀行は短期資金支拂ひのための外國爲替の需要には、一切應じない事になつた。

尙国立銀行の外國爲替賣却方針は、總て輸入目的の如何によつて左右され、又必需品なるか否かによつて決せられるのである。但しこの間に於ける一つの例外は、商業會議所よりの證明ある者には、外國爲替の獲得が比較的自由にされてゐる事である。

I チエツコ、スロバキアの爲替管理

英國金本位停止の報は、チエツコの市場を一時混亂せしめたが、間もなく常態に恢復した。チエツコスロヴァキは埃太利のクレデット・アンシユタルトの破綻に際しても、又獨逸の恐慌の時にもさして重大な影響を受けてゐなかつた。英國の事變に際して極めて鎮靜であつた。

同國輸出貿易の大部分、例へば鐵及砂糖は凡て磅で値極めされてゐたので、英貨磅の低落に依つて蒙る損害は可成り大きいのであるが、他方輸入品の多くも磅で取引されてゐる故利害相殺の關係にあつた。

併し乍ら、世界的な神經過敏に鑑み、国立銀行は九月二十二日公定割引歩合を五分から六分に引上げ、外國爲替取引を制限することに決定した。諸銀行の外國爲替買入及外國勘定の振替を、同行が統制する方策が執られた。けれども此の方法のみでは、チエツコと外國間の資本の移動を明確に知ることが出来ないで、十月二日政府令が發布され、一九二四年の制度と同様な外國爲替統制策が採用された。即ち

- 1 外國爲替は全部強制的に国立銀行に買取られる。
- 2 對外支拂に必要な外國爲替は同行が必要額だけ賣却する。

3 外國有價證券の買入れ、外國爲替の裁定取引、外國商社に對する信用の許容等は、豫め國立銀行の認可を得なければならぬ。

4 但外國人の勘定は外國通貨たるとチエツコクラウンたるとを問はず右の制限を加へられない。

J 希臘の爲替管理

希臘に於ては、昨年九月二十八日政府令が公布され、金、金貨、外國爲替及外國銀行券の賣買は希臘銀行が獨占し、同行は任意に商業上及經濟上の需要に對してのみ、右買入れ外國支拂手段を賣渡すことになつた。

輸出商品の手取金は、その對價として希臘貨ドラクマを受取つて希臘銀行に引渡さねばならない。

海外に於て振出された小切手をドラクマで支拂ふことは、相當額の外國爲替を

豫め希臘銀行に賣渡す場合を除き、禁止された。

輸出業者はその代金として受取る外國通貨を、總べて國立銀行に賣却する義務を課せられた。

出國税を課することに依つて、海外旅行を制限することも企劃せられた。

十月九日に至つて、新に政府令が發布せられ、有價證券、利札、希臘及外國銀行券は希臘銀行の特許なくして輸出若しくは交換するを得ないことになつた。

又小切手、信用狀其の他の方法で、外國へドラクマを送ることを禁せられた。外國支拂手段、小切手若しくは手形に對してドラクマの貸付を爲すことは禁せられ

た。

九月二十八日以後預け入れられた外國通貨の預金は同じ通貨で拂戻す事が出来る。併し、同日以前に預け入れられたものは希臘銀行の許可を経て、外國に住所を有する

人の経済的必要に應ずるもの限り、全額若しくは一部を、預け入れた通貨で拂戻すことが出来る。

本年二月に入りて、希臘政府は、過去五ヶ月の経験に基き、法の繁鎖を避け、而もその取締りを効果的たらしむる目的を以て、右の爲替統制法を改廢し、貿易獨占法を定めて、輸出業者が輸出によつて得たる外國爲替を政府に賣上げる義務を除く外、その取引を全然自由にした。

Ⅴ 勃牙利の爲替管理

勃牙利に於ては、輸出の大部分が磅で契約されて居り、又實際上主要輸出港に於ける輸出取引は磅一覽拂手形でフィナンスされてゐる爲めに、この國の輸出貿易に及ぼした英國金本位停止の影響は重大なものがあつた。國立銀行法は、その發券準備は金及自由に金に兌換され得る通貨たることを要すると規定してゐるのであるか

ら、磅はその法的適格性を失ひ、發券準備は低下せざるを得なかつた。九月二十二日國立銀行は磅の建値を廢した。同行が爲替取引を支配してゐる結果、勃牙利に於ては約十日間磅手形の取引は行はれなかつた。併し乍らその後各方面の協議が纏り十月に入つてから磅は再び相場を發表されるに至つたが、取引は寥々たるものであつた。

磅以外の通貨、佛蘭西フラン、瑞西フラン、ギルダ、或は弗を輸出貿易の基礎として採用することは、それ等の金融市場の提供する利便の程度が磅程に技術上圓滑であることが望めない爲に、磅の如きスケールで實現されることは出来なかつた。此の如き新たな障害が生じた爲に勃牙利の貿易は著しく不安の度を増して來た。九月二十九日に至り、公定割引歩合は八、二分一から九、二分の一に引上げられた。前途の不安に刺戟されて、各銀行商社等は手許資金の充實に努めた結果、一

般信用は著しく梗塞を來した。

輸出貿易と外國爲替準備との蒙つた影響の頗る重大であつた事は云ふ迄もない。又一方國立銀行の準備は漸減し來り、大藏大臣の聲明に依れば、十月初めに於ける準備率は發券高の三二%であつて、法定準備率の三三、三一%を割るに至つたのである。

かくして事態の切抜け容易ならざる事が一般に感知され、外國爲替を情勢に應じて配分統制する機關の設置が要望されるに至つた。

十月十五日、一の法令が發布され、外國爲替取引は一切を擧げて國立銀行の統制下に移さるゝ事となり、外國爲替の買入は、總て國立銀行に届出での上、その許可を受けねばならぬ事となつた。

更に十月二十一日には一層具體的な法令が發布され、左記の諸條項を規定した。

- 1 物貨の國外持出しを制限する。
- 2 輸入者は必要額の外貨を國立銀行に通告する義務がある。
- 3 民間の外貨預金は、國立銀行の許可を要する。
- 4 外貨保有者は、國立銀行の許可を得て之を使用し、而して保有外貨を使ひ果すまでは新たに要求する事を許さない。

物牙利の爲替管理は、次第に貿易管理に進み、十二月二十五日には國立銀行は、大藏大臣の認可の下に、廣汎に亘る必需品以外の輸入商品に對し、支拂爲替取引を禁止するに至つた。

L ハンガリーの爲替管理

ハンガリーに於ては、既に獨逸金融恐慌に續いて、昨年七月十四日以来、一切の外國貨幣爲替取引は國立銀行の監督の下に置かれた。中欧金融恐慌後ハンガリー

政府は、總ての銀行預金及び債権は金「ペソ」たるべき事を布告した。この政府令は預金者の信託を恢復し、且つインフレーションを防止するを目的としてゐたのであつたが、此の政策は功を奏した。八月七日現在の國民銀行券流通は五億三百八十萬ペソであつたが、九月二十三日には三億五千二百萬ペソに減少してゐた。

八月八日、政府は貿易統制の必要から、更に緊急命令を出し、外國爲替業務は全部ハンガリー國立銀行の獨占とし、輸出入貿易をその統制下に置き、必要に応じて帳簿檢閲の制度をすらとる事とした。

ハンガリー貨幣の國外輸送は絶體に禁せられ、又外國旅行者でも、外貨は三百ペソ以上を許さぬ事とした。

九月十九日更に緊急令が發せられ、同國に居住する個人、商社、法人は總べてそ

の所有する二百ペソを超える外國支拂手段並に一千ペソを超える外貨債權を届出づべき旨を強制された。

右の届出では國民銀行に對して爲さるべく、同行は十月三十一日迄に、その外貨及外貨債權を買取るべきかを通告しなければならぬ。

その所有高の半額を政府に對し三ヶ年間五分利で貸上げることを出でたるものは残額を自由に處分することが許される。

違反者は八千ペソ以下の罰金に處せられ、無届外貨は沒收される。届出は總べて個人的報告として取扱はれ租稅關係に利用されないことを確保されてゐる。

M 西班牙の爲替管理

西班牙は英國に對して間接債務を負つてゐた。即ち政府のクレジットを設定してゐるのみであつて、金融方面から大して重大な影響を受ける懼れはなかつた。然し

大蔵大臣は即刻種々な方策を執つた。外國爲替統制局の爲替取引は中止を命ぜられた。税關は金本位通貨で拂込まるべき關稅の支拂に磅を受け入れざるべき旨命令された。米弗及佛蘭西フランの小切手のみが受け入れられることになつた。

九月十九日五三・六五ペセタを唱へられてゐた磅は、二十一日に四五・六〇ペセタとなり二十六日には三九・五〇となつた。

石炭業及紡績業は英國品の侵入に危懼を抱いて居り、一方農産品輸出業者はその價格を磅で取定めてゐるものが多いので、時恰も輸出期に當つて損失に直面してゐる。(英國は年々一億二千萬ペセタのオランダ、二千五百萬ペセタの玉ねぎ其他葡萄酒、生果乾果、及コルク等を西班牙から輸入してゐる。)

政府は特別經濟委員會を任命し、工業及輸出業兩者を防衛すべき方策を審議せしめることになつた。十月一日から委員會は開催された。同委員會は前述の諸産業

關係者三十名勞働組合代表八名に依つて組織されてゐる。

尤も、西班牙の爲替管理は、頗る長い經驗をもつて居り、一九一四年八月以來、兌換も金の輸出も禁止のまゝで、その相場は爲替管理によつて漸く維持されてゐたに過ぎない。

而して一九三〇年七月には、早くも中央管理局を設け、爲替取引を統制し、銀行の監督を行ひ、通貨の賣買に制限を加へた。

又、諸銀行が外國通貨の賣買を爲すに當つては、總て爲替管理局の許可を要する事とした。

一九三一年五月には、輸入貿易に統制を加へ、輸入者をして其取引の詳細を申告登記せしむる事とした。

一九三一年九月九日には統制を更に嚴にし、民間銀行をして所有の外國爲替を、

「ベセタ」と交換せしむる事とした。

十月一日以來は前記特別經濟委員會が任命され、廣汎に亘つて諸産業の防衛策が考究される事となり、その結果として、十二月二十四日以來、輸入品に嚴重な制限を加ふる事となつた。

N 英領印度の爲替管理

英蘭銀行の兌換停止に伴ひ、印度政府は對英爲替の動搖あるべきを豫想し、九月二十二日左の聲明を試み、不安の除去に努めた。

「印度の對英爲替相場は、一九二七年春、一ルビーに付一志六片と制定して以來今日まで、事實上金と同一儀のスターリングを基礎として安定されて來た。印度貿易の金融は勿論、印度外債の大部分はスターリングによるものである事は申すまでもない。今英本國が金本位制を一時中止したるに際し、印度が依然金塊本位

を繼續し、ルビー貨のスターリング價值を増加せしむる事は決して策の得たるものではない。依て政府は英本國が金本位を停止したるを機とし、金を離れたスターリングを基礎とする通貨制度を維持する事に決定した。

印度財政の基本たるルビー爲替の破壊は、財政經濟に重大なる危機を醸し、其結果たるや計り知るべからざるものがある。政府はその災禍を防止するため總ゆる方法を講ずる事に決した。

之によつて印度政府は即時に金又は英貨磅の賣出しを停止したが、二十四日に至り之を廢止し、金及び英貨磅の賣却は、印度帝國銀行のみ爲す事を得しめ、その賣却は左の場合に限ると規定した。

- 1 正常の貿易上の需要。
- 2 九月二十一日以前の契約の履行。

3 正當なる内地需要。

而も小額取引に依る爲替相場の騰貴を防ぐ目的を以て、一口二萬五千磅以上の取引たる事を條件とし、之に違反行爲あるものには、制裁として印度帝國銀行が七日以内に取引を停止せしむる事とした。

而して十月七日には取締りの徹底を期するため、更に嚴重なる統制を加へる事となり、左の如き命令が發布された。

1 爲替銀行は毎週買高、スターリングの賣先、特高を帝國銀行へ届出でること。

2 印度の輸出金融以外の海外筋のスターリング賣を禁止すること。

然るにその後四圍の情勢緩和され、金融、爲替上豫想せる波瀾もなきに鑑み、本年一月三十一日右の法令は廢止さるゝ事となつた。現在は更に印度政府による金及

び金磅の賣出しが停止せらるゝのみで、その他の爲替取引は自由である。

0 南阿聯邦の爲替管理

この國は印度と同じく英國の屬領ながら、必ずしも英本國に倣はず、多少行方を異にして居る。

英國金本位停止の翌日、即ち昨年九月二十二日、聯邦政府は時を移さず金本位維持を聲明し、極力その擁護に努め、現在依然として之を維持してゐるのである。

英貨磅の動搖を嫌ひ、十月三日以降直接佛蘭西フラン、アメリカ弗に對する爲替相場を建て、對外取引に新機軸を出すに至つた。

十月十三日、南北ロデシアの金本位停止が傳へられるや、政府當局は主要産業に重大な影響あるべきを考慮したるも、それにも拘らず、南阿聯邦は金本位制を維持すべき旨を重ねて聲明した。

併し乍ら聯邦政府は之に對する當面の對策を緊要とし、十月二十九日左の如き貿易保護案を政府令を以て公布し、發表と同時に實施する事とした。

「金、ダイアモンド、砂糖を除き、總ての主要輸出品に對し、一割の補助を與へると同時に、總ての輸入品に對し、五分の特別從價税を課する。この貿易保護令は、本年一月中旬一部改正され、輸出補助金平均二割五分に増加された。

外國爲替の賣買に關しては、昨年十一月三十日以來總督に對して通貨、銀行、爲替に關する取締令の權限が附與されて居るが、特に管理手段に出でたるを聞かない。たゞ各銀行は申合せにより、純然たる商業以外の爲替に對しては割當制度を行つてゐるに過ぎない。

P 土耳其の爲替管理

土耳其に於ては、近年不換紙幣の膨脹、金輸出禁止及び引續く輸入超過によつて

爲替相場が益々暴落するので、一九三〇年二月以來、貨幣相場保護法、貨幣有價證券買法の發動を見、外國爲替や一般有價證券の自由賣買を禁止し、その取引は爲替統制局の許可を要する事となつてゐた。

然るに、昨年九月の英國金本位停止に遭ひ、愈々自國貨幣、産業及び貿易の保護を感じ、九月二十四日イスタンブールの取引所は外國爲替相場を磅建よりフラン建にする事を發表し、十月一日には土耳其政府は、土耳其通貨の安定基準として、磅を捨て、佛蘭西フランを採用するに決定した。

而して更に十一月月上旬、經濟的危機に際會し、貿易の均衡を得るため、輸入制限令を公布し、同十六日より實施するに至つた。

内容は左の如くで、今日最も徹底せるものと云はれてゐる。

第一條 土耳其の製造工業に充てらるる原料品以外の輸入品は、一九三一年十一

月十六日以降、政府が毎月の輸入額を決定する。

十二月末迄の額は、前年一九三〇年同期の輸入額を標準として、本令と同時に公布するが、一月以降の分は各二ヶ月宛、二十日前の豫告を以て、官報により公布する。

右輸入品は税關着の日附順に計算せられ、その月額を超ゆる場合は、翌月の制限中に廻さるべし。

第二條

右輸入額の決定には、内國産業の發達、物價騰貴並に事實上のモノボリ防止等の諸點を考慮す。

第三條

諸官應用外國品の供給者は、原則として右商品と同價格の土耳其品を購買すべし。

第四條

輸出入の均衡保持上、將來締結すべき通商條約中に相互補償を受くべき

商品リストを設くる。

試みに一九三一年十一月以降十二月迄の本邦に關係ある商品の輸入決定額を擧ぐれば左の如くである。(單位疋)

貝 紐 釦	三九〇
セルロイド	三八七
同 齒 刷 子	三五四
未晒綿絲 十四番迄	一四三、〇〇〇
同 二十四番迄	一八〇、二〇〇
同 二十四番以上	一三、八二〇
同 晒綿絲 十四番迄	一〇、一一〇
同 二十四番迄	二〇、五〇〇

同	二十四番以上	一二、四〇〇
粗布(前年同期分の半分)		三五七、〇〇〇
縞三綾と莫大小生地(前年同期の六割)		六八九、〇〇〇
生地綿布(六割)		六五、〇〇〇
捺染綿布(六割)		三六二、〇〇〇
晒綿布		六八、〇〇〇
ベルベツチン		一二、〇〇〇
靴紐、護謨紐		二、八〇〇
護謨靴(六割)		五〇、八〇〇
陶、磁器(八割)		二一、〇〇〇
電球		七、二〇〇

硝子卸	四〇〇
自轉車部分品	一、五〇〇
除蟲藥	九〇〇
人形類	四、〇〇〇

竹、ステッキ類、バナマ帽は當期間輸入禁止。

尙、トルコにありては、爲替管理は「貨幣並に有價證券賣買に關する法律」により、貨幣及び外國爲替の賣買は政府の認可を受けたる銀行又は銀行家を通じてなす事になつて居り、現在は外國爲替取引は特許銀行に限られ、特許銀行は中央委員會を組織し、大藏省と協力して管理の任に當つて居る。

中央委員會は必要に應じ、政府に代り、銀行、銀行家、其他の機關の帳簿及び證書を檢閲し、又は報告を提出せしむる権利をもつて居る。

而して外國爲替の買入れは、中央銀行の公定相場による事になつて居る。

1011

Q 智利の爲替管理

土耳其の爲替及貿易管理と相對して、是非擧げなければならぬのは、智利のそれである。

南米諸國に於ける公私經濟の行詰りは、周知の事實で、さきに秘露はケンメラ博士を招き、外科手術を施して見たが経過は一向面白くない。アルゼンチン、ブラジルも亦ニーマイヤー氏を招聘し、臨床診察を受けたが、今尙瀕死の状態から脱しない。この間にあつて、智利は總ゆる手段を盡して、通貨安定に努力し、輸入防止に努め、兎も角名目だけでも最近まで、金本位を維持し得たのは健氣と云はねばならない。

即ちこの國は獨逸と同じく、金本位を維持しながら、爲替管理を實施したのであ

る。尤も實際には金ペソは流通せず、中央銀行發行の紙幣ペソが主に流通してゐたので、事實上は金本位離脱と同様な結果になつてゐた。従てペソの市場相場は過去數ヶ月に亘り、公定相場の半額にも達しなかつた。

智利國が對外諸取引を統制するため、國際爲替取締法を制定し、廣汎な權力をもつた爲替管理委員會を設立したのは昨年七月である。委員會は、中央銀行總裁、各銀行頭取、大藏省主腦者より成り、取締法の骨子は左の如くである。

- 一、外國爲替取引は總て管理委員會に於て管理する。
- 二、内外金貨並に金塊の賣買を制限又は禁止する。
- 三、正常なる商業又は金融上の取引に基かざる爲替取引を禁止する。
- 四、中央銀行は外國爲替買の獨占權を賦與せられ、他の銀行は、中央銀行並に委員會の承認を得たる場合に限り、之をなす事が出来る。

この國の爲替管理に就て注意すべきは、一切の外國送金を伴ふ取引に對して嚴重な規定を設けた點である。即ち左の取引をなす場合には委員會の承認を得なければならぬのである。

- 1 智利國内外に於て、外貨を以て決済するを要する一切の契約。
- 2 外貨又は金の受渡しを生ずる一切の證券取引。
- 3 金の輸出。

世人は之に對し、これまで經濟不況並に財政逼迫が甚だしくなつて以來、行はれた對策中、最も嚴酷な手段であると評したが、併し當局は之を以て向ほ足れりとせず、十一月五日更に輸出入統制を實施し、特に輸入品に對する代金決済を取締る方針を取るに至つた。

即ち、輸入商品に對して、禁止、制限等の方法をとる代りに、其の代金決済に際

して、原料品、必需品と然らざるもの、贅澤品等に、極端なる緩嚴の差別を設くる方法をとつた。

又輸出商品に就ても、硝石、沃度、銅、鐵の如き特殊品を除き、他の一切の輸出には其代價たる現金若くは商品輸入して決済する事を要求し、且つ商品輸出に際しては、總て管理委員會の指定若くは認可を受くる事とした。

海外送金に就ては、在外家族の生活費、その他眞に止むを得ざるものに限り、無意味なる送金は全然之を禁じて居る。

尙最近の報導によれば、智利政府は三月に入りて、更に右の取締方針を擴張し手形の四パーセント以上の送金を禁止したとの事である。即ち外國への輸出代金は全額を取立てるが、輸入代金は其の四パーセントのみを現金にて支拂ふ。残り九十六パーセントは智利銀行へ供託若くは預金證書交附の形式をとり、現金支拂の暫定

的延期を行ふもの、由である。

蓋し輸入防止方法として他に類例なき徹底したるものであらう。

R アルゼンチンの爲替管理

アルゼンチンの爲替管理は、昨年十月十三日發布され、即日實施された。ナリーの嚴格を見た眼には、極めて寛大なものである。内容左の如くである。

- 一、爲替は大蔵大臣の任命する委員會に於て管理すること。
- 二、總ての爲替取引は委員會の指定せるヴエノスイレス所在の銀行を通じて行ふこと。
- 三、輸出商は商品積出前、當該輸出爲替が、所定の爲替市場に於て賣却されたるか又は賣却さるべき事を證明する事を要する。
- 四、總ての輸出品は、外國貨幣にて賣約する事を要する。

五、外國銀行並に外國商社の銀行預金は、十月十日現在殘高を限度として、自由に處分する事を得る。

但し、同日以後の紙ペソ拂出しに對しては、必ず之に相當する送金ある事を要する。

六、對外支拂ひは、毎日一人當り一萬紙ペソに限定する（この限度は現在一千ペソに引下げられた）それ以上は委員會の許可を要する。

七、ペソ貨建外國爲替手形及び信用證券の發行を禁ずる。

S ブラジルの爲替管理

ブラジルの爲替管理法は、十月五日公布實施せられた。その骨子はアルゼンチンと大同小異であるが、伯貨送金爲替の賣却義務を課したる點、並に爲替缺如の對策としてモラトリアムを公布したる點等にて、見逃すべからざる異色を持つ。

その要點を擧ぐれば左の如くである。

一、ブラジル銀行は輸出手形、ブラジル向外貨送金、其他爲替の買取を獨占的に
行ふ。

二、但し、一般銀行は一日五千弗相當額まで買取差支へなし。

三、伯貨送金の場合、直ちにブラジル銀行に爲替賣却を要す。

四、爲替の買持は、ブラジル銀行に乗換を強要せらるゝ事あるべし。

五、ブラジル銀行は、一般銀行の請求に基き、前記買取りたる爲替を定期的に分
配譲渡す。

六、外國爲替の賣買は、ブラジル銀行の定むる相場による事を要す。

七、海外向送金は、一人一ヶ月五百ミルレース、それ以上は監督局の許可を要す。
ブラジル政府は、更に爲替供給缺如の緊急對策として、十月九日支拂猶豫令を

公布するに至つたが、その要領は次の如くである。

1 外貨で表示せられた手形證券及び契約債務にして、一九三一年十二月三十一
日迄に期限到來するものは、六十日間支拂猶豫される。

但し、爲替賣買契約に就ては、この限りにあらず。

2 猶豫令を採用せんとするものは、ブラジル銀行若しくは關係銀行に相當額の伯
貨を供託する事を要す。

換算の基礎は四片、弗の法定平價は四八六六五、而して爲替差額は實際支拂の
時決濟すること。

T 濠洲の爲替管理

濠洲聯邦に於ける爲替管理は、可なり古いもので、一九二九年十二月、金輸出の
特許權をコンモンウェールズ、バンクに附與せられたると同時に開始せられた。そ

の要點を擧ぐれば左の如くである。

一、諸銀行に於て、爲替の割當制を施行する。

二、大藏大臣は必要と認むる時は、コンモンウェルス銀行理事會に對し、濠洲に於ける内外人の保有金貨並に金地金に關する申告をなさしめ、その保有金を濠洲紙幣と交換せしむる權限を賦與する。

而して、金貨との交換價格は紙幣の額面、金地金との交換價格は標準金地金一オンスに付三磅十七志十片半とする。

十、貿易管理の得失

爲替管理は、もと／＼貨幣制度の安固を得ると云ふ立場から、爲替相場の動搖を防ぎ、資本の海外逃避を喰ひ止める事に努力するのでありますが、それがためには

根本に遡つて財政の均衡を得なければなりませんし、貿易の改善に努めなければなりません。結局に於て、國際收支の改善が何より大切と云ふ事になります。

この見地からして、爲替管理と云ふものを考察致しますと、爲替相場の動搖を防ぎ、資本の逃避に備ふると云ふ點に於ては、或る程度の効果ある事は疑ひありませんが、併し充分に之を取締り得るかと云ふと、それは獨逸や智利の爲替管理に於て經驗しましたやうに、なか／＼容易に統禦する事は出来ぬのであります。

何と云つても、その根本たる貿易にまで手を加へなければ、ほんとうの効果は望めないものと思はれます。

前に掲げた諸國の例でもわかりますやうに、先づ爲替、送金の管理から出發しまして、輸入超過の制限に及び、そして漸次その度を嚴にして、輸出入貿易の統制にまで至ると云ふのが一般の經路のやうに思はれます。

獨逸政府が資本逃避を抑制せんとして、之と智慧競べのラリーを演じた事は前に述べたと思ひますが、何しろ打續く財界不安から、死物狂ひになつてゐる内外の黄金魔を完全に取静めると云ふ事は殆ど不可能に近いのです。これは獨逸に限らず、諸國の實際に見まして、程度の差こそあれ、何處の國でも同じやうな、にがい經驗を味はつて居るのであります。

ですから、これらの状態を眼のあたり見た人は、大抵貿易管理の主張者になりません。貿易管理を併せ行ふ事になりますと、管理の効果が徹底して來る事は明かな事實であります。尤も同じ爲替管理、貿易管理と申しましても、内容は非常に違つてゐますから、効果を一概に云ふ事はどうかと思ひますが、兎も角、國際收支の根本に直接手を加へ得る點から云つても、貿易管理が爲替管理に比して、大きな力である事は首肯出來ると思ひます。

たゞこゝに一應注意して置き度いと思ひます事は、吾々が只今のやうに、漠然と貿易管理と云ひますと、自由貿易に對する何等かの制限、拘束は總て一種の管理に外なりませぬから、この點からすれば關稅政策であれ、輸出補償制度であれ、一種の貿易管理と云つて差支へない筈ですが、併し吾々の意味する貿易管理とは、無論かくの如き廣義のものではありません。短的に申せば、直接國家が輸出入商品の種類や數量に調節を加へる事によつて、貿易上の不均衡を調整せんとする國家的政策でなければなりません。

今日法令によると否とを問はず貿易管理を行つてゐる國は、前に「爲替管理と世界の分野」の項に於て見たやうに、非常に多いのですが、中にも獨逸、土耳其、智利の三國は最も徹底した政策をとつてゐるのであります。殊に變つてゐるのは智利でありまして、他の諸國は輸入管理とか割當制度とかの方法によつて輸出入を統制

して居りますのに、この國に置きましては、單に爲替管理を通して積極的に輸入を制限するのみで、輸入商品の種類や數量に對しては、何等制限や禁止の方法をとつて居りませぬ。その代り輸入代金の支拂ひに際して極めて嚴重な制限を行ひ、智利の産業に必要な原料及び必需品の代金決済は易々として之を許すが、國內生産品、寶澤品等は極端に抑壓を加へ、貿易管理の實を擧げてゐるのです。

これらの國々の貿易統制振りの一般に就ては、前に可なり詳しく申上げましたから繰返す事は止めますが、たゞ一つ申上げ度いのは、嘗て獨逸政府が取締りに非常に困つたと云ふ輸出貿易の形式によつてなされる資本の海外逃避に對する取締方法の相違です。

獨逸は之に對して、輸出商が外國の輸入商に對してもつてゐる爲替以外の債權の取立を必要に應じて、中央銀行たるライヒスバンクに委託させると云ふ方法をとる

貿易管理と相俟つて、輸出貿易の代金にして、國內に回収されないのは、その輸出商に對して、ライヒスバンクから取立委託を要求すると云ふ事で、資本の逃避を防いで居ります事は、前に申しましたが、之に對して智利は、商品輸出の場合、その代金は必ず現金若くは必需商品を輸入して決済させる事にして居ります。海外委託商品に就ても、處分後は、現金か商品を受けて決済したる事を正確に報告させるると云ふ方法をとつて居るのです。たゞ硝石とか、沃度、銅、鐵の如き自國の特産品の輸出に對しては、之に例外を設けて居ります。

貿易管理の効果は、兎も角、輸出入貿易の内容に觸れて、直接その數量を調節し、國際收支の改善に資し、且つ爲替相場の安定、資本逃避の防止に就ても、爲替管理の効果を更に徹底せしむる點にあると思ひます。

今試みに、獨逸の輸出入貿易の實數を擧げて、過去一ヶ年に亘る貿易管理の影響

が獨逸の對外貿易の上になんか結果を齎らしたかを調べて見やうと思ひます。

獨逸の輸出入額

(單位百萬マルク)

	輸入	輸出	入超	出超
1925-29 月平均	1,051	959	92	—
1930	566	1,003	—	137
1931	566	800	—	240
1931: 1月-6月	634	794	—	160
7月	562	827	—	265
8月	454	803	—	349
9月	418	835	—	387
10月	483	879	—	396
11月	482	749	—	267
12月	488	738	—	250
1932: 1月	440	542	—	102
2月	441	538	—	97
3月	364	524	—	160
4月	427	481	—	54

獨逸が戦後の入超時代を乗切つて、出超に轉じたのは、一九二九年末からであります、併し今日の如く巨額の出超を見るに至つたのは最近の事でありませう。

この表に依りますと、一九三一年の月平均出超額は一九三〇年のそれよりも、約七五バセント多く

なつてゐますが、それが獨逸貿易の増進から生じたものでない事は明白であります。即ち貿易總額の月平均は一九三〇年より一九三一年に至つて、約三八バセント低減

して居ります。従つて右の出超も單に輸入の減退が輸出の減退よりも遙かに甚だしかつたと云ふ事實から生じた事は無論であります。

然らば、この出超と輸入の著減とは何によつて齎らされたのであるか。この點が吾々のこれから考へて見やうとする要點なのです。

私の見る所によれば、輸出の比較的減退しない理由としては、經濟不況と賠償支拂ひの重壓のために、國內市場は殆ど無能力となり、獨逸をして其努力を輸出に傾注せしむるに至つた點を擧げなければならぬと思ひます。それがために、獨逸は産業の大合理化を行ふと共に、殆んど經濟の國家管理にも等しい廣汎に亘る強制的デフレーション政策を斷行したのであります。その結果は諸外國の競争を遙かに抜く生産費の大低下となつて現はれたのであります。

輸入著減の理由としましては、國內購買力の減退、工業活動の衰退、國產獎勵の

結果等にもよりませんが、尙有力な理由としまして、昨年下半年以降行はれた外國爲替管理、貿易管理政策による嚴重な輸入制限を擧げなければならぬと考へます。昨年七月以降出超の數字がメキ／＼増加しました點から見ましても否定する事の出來ぬ現象ではないかと考へられます。尤も本年に入りましてこの勢ひは又逆轉して參つたやうであります。それには諸國の關稅政策の徹底、就中、獨逸の最大のお得意先たる英國が製造品、機械類その他原料品を除く一般輸入品の稅率を引上げるに至つた點等が考慮されます。

かやうに見て參りますれば、獨逸の出超増加は、必ずしもそれが貿易の進展に基くものとは云ひ得ませぬし、又他國の金本位停止、關稅引上等により、必ずしも永續すべきものと樂觀する事は出來ぬかも知れませんが、併し世界不況の渦中にあり難問題累積する裡にありて、獨逸がよく輸出貿易の落調を他國に比して比較的輕度

に喰ひ止め、殊に一九三〇年下半年以降は、次表に見るが如く、英國を凌駕し、一九三一年三四半季には合衆國をも追ひ抜き、輸出貿易に於て世界の王座を占むるに至つた事は驚嘆に價ひするものと思ひます。

獨、英、米輸出貿易比較表

(單位百萬マルク)

	獨逸	英國	米國
1929年上半季	6,538	7,326	10,860
● 下半季	6,944	7,555	10,801
1930年上半季	6,206	6,211	8,541
● 下半季	5,830	5,417	7,308
1931年上半季	4,768	4,069	4,884
● 第三四季	2,465	1,866	2,173

〔註〕 獨逸は賠償實物給付を含む

以上、大分長々と貿易管理の效能を述べ立てましたが、併し、これは決して副作用を伴はぬ萬能藥だと云ふのではありませぬ。

貿易管理の方法には、後の項に分類してありますやうに、輸入品の種類により特定のものに限つて禁止するとか、制限するとか、許可制度をとるとか、品目數量に對して割當制をとるとか、その他、關稅などを見てもわか

外色々あります。實際効果を擧げます點から云ひますと、關稅などを見てもわか

りますやうに、相當徹底した程度に行はなければ、實績を擧げる事は出来ぬのです。實績のあがらぬやうな政策なら最初からとらぬ方が宜しいし、そうかと云つて思ひ切つた手段に出ると、商取引を壓迫し、自然の發展を阻害する惧れがあります。その上外國の報復的手段も考へられますし、その結果却て國內の産業を一層窮迫せしむる惧れも極めて多いのです。結局毛を吹いて傷を求むると云ふ結果になり易い危険が多くなるとすれば、貿易管理必ずし有利とは云ひ得ないのです。

この點に就ては、先般巴里に開催された國際經濟會議の委員會でも次の如き決議を行つて、警告を發してゐます。即ち

「嚴格に爲替制限を行ふ場合には、

- 1 國際貿易が窒息されてしまう危険がある。
- 2 非常に危険で警戒すべき事は、産業貿易に政府が干渉し易い事である。

3 甲乙の債權者に對してのみならず、甲乙の國に對し、差別待遇を與へ、通商條約に違反する危険が多し。」

と云ふのがそれです。

何と云つても、貿易管理など、云ふものは非常時對策なのですから、八方圓滿に行きかねる事は當然で、資本の逃避や國際收支の不均衡が生温い手段ではどうする事も出来ぬと云ふやうな急迫した状態に立ち至つて始めて發動さすべき政策であらうと思ひます。我が國の現状が果してそこまで至つて居るかどうかは、見る人の立場によつて違ひますが、今政府が臨時議會に提出せんとしてゐる法案に就て見ますと、まだそこに至る迄には大分距離があるやうに思はれます。

従て吾々もこゝでは單に、爲替管理から一步を進めて、貿易管理をすると云ふ事になると、差當りどう云ふ効能があり、危険があるかと云ふ事を述ぶるに止めて置

きます。

十一、貿易管理の種々相

爲替管理に種々なる方法があり、様式があつたやうに、貿易管理にも色々の態容があり、手段があります。その大要は、既に「爲替管理と世界の分野」の項下に表し致しましたが、併しあの表は主として形式の上から見たものでありまして、例へば智利の如きは貿易上には統制を加へず、單にイギリス並みに外國爲替取引のみに制限を置いてゐるやうに思はれますが、事實は決してそんなものでなく、輸出に對しても輸入に對しても、爲替決済を通じて徹底的取締りを行つてゐるのであります。これと同じやうな例は他にもいくつもあります。ですから私は、これらの點を考慮しまして、前の形式上の分類には拘りなく、實

際（さい）の取締り（とらへり）手續（てうきう）の上（うへ）から、その代表的（だいひょうてき）な國々（こくぐ）を分けて見やうと思ひます。

先づ（まづ）最初（さいしよ）、商品（しやうひん）の種類（しゆるい）に對し（たいし）禁止（きんし）や制限（せいげん）の方法（はうほう）をとらず、爲替管理（かへせくわんり）を通じて貿易（わうい）を統制（とうせい）するものと、貿易管理（わういぐわんり）によつて輸出（しゅつこ）入（に）に制限（せいげん）を加へるものと二つに分けて見る（み）必要（ひつよう）があります。

一、爲替管理を通じて行ふ國々

智利（チリ）はその代表的（だいひょうてき）なものであります。その他（た）ブルガリア、エストニア、サルバドル（サルバドル）等（とう）これに屬（ぞく）して居（ゐ）ります。

尤も（もつと）爲替管理（かへせくわんり）に多少（たせう）共貿易調節（きわういせうてうせつ）の意圖（いどう）を有（あ）しない國（こく）は殆ど（ほとん）ないと思ひますが、それは程度（ていど）の問題（もんだい）ですから、こゝには代表的（だいひょうてき）な國（こく）のみを擧（あ）げる事（こと）にします。

二、特に貿易管理を行ふ國々

獨逸（どいつ）、伊太利（い大利）、土耳其（とルコ）、埃太利（あすまり）、和蘭（わらん）、ハンガリー、チエツコ、スロバキア、

一三四
西班牙、ポルトガル、芬蘭、エストニア、ウルグアイ、ノルウェーノル威、デンマーク丁抹、ラトビア、ア、等。

この外、貿易を官營として實行してゐる國々もありません。ソヴェット、ロシア、ペルシャ、エストニア等がそれでありませう。

次に、取締り手續の上から分けて見ますと、左の如くであります。

一、品目、數量に對し、割當制度をとるもの

トルコ土耳其、オランダ和蘭はその代表であり、ハンガリーハンガリー、ノルウェーノル威、デンマーク丁抹等もこれに入るべきものと思ひます。

二、特定輸入品を制限又は禁止するもの

フランスフランス、ドイツドイツ、チエツコチエツコ、スロバキアスロバキア、エストニアエストニア、オーストリアオーストリア、ブルガリーブルガリー、等。

三、一般輸入品を制限するもの

ウルグアイウルグアイ、スペインスペイン、ポルトガルポルトガル等。

四、特に金本位停止國よりの輸入を制限するもの

イタリヤ伊太利、南ア聯邦南阿聯邦、トルコ土耳其等その代表的なものであります。

尙、もつと細かに分けますと、

一、輸出代金に統制を加ふるもの

チリ智利、トルコ土耳其、ドイツ獨逸、ユーゴスラヴィアユーゴ・スラヴィア、オランダ和蘭、アルゼンチンアルゼンチン。

二、輸入に對する代金決済を取締るもの

トルコ土耳其、チリ智利、ドイツ獨逸。

三、輸出割當法をとるもの

オランダ和蘭

尤もこれは相手國が輸入割當法をとつてゐる場合に限る。

一二六

四、輸入者に對し相當額の輸出を要求するもの

土耳其

尤もこれは土耳其の官公廳に對する外國品の供給者のみに適用される。

先づ大體こう云つた程度のものです。

この中どの制度が良いか悪いかが、それは簡単に斷定するわけには参りません。總て國情、國民性、環境、時の情勢によつて、取捨を決めねばならぬ事ですから一概に云ふ事は出来ません。相手國の如何、取引商品の輕重、國民の文化の程度によつても、對策は非常に違つて來ると思ひます。

十二、爲替及貿易管理と世界の貿易

以上述べましたやうに、英國の金本位停止を一轉機と致しまして、各國は自己保身の必要から、或は爲替管理の手段により、或は貿易管理により、逃避資本の防止産業保護、國際收支の改善に努力するに至りましたが、多くの國々は尙その上に種々なる名目の關稅政策をも併用しまして、他國製品の侵入に備へ、極力自國經濟の保護防衛につとめて居るのであります。

併し乍ら、各國間のかゝる排他經濟政策の競争は、結局世界に何を齎らしたか、之を國別に見れば、或は之によつて輸出入貿易の均衡を得たる國もありませう。又資本逃避を防止し得たる國もありませう。

けれども、それと同時に貿易の萎縮、取引の不自由のために、諸産業の發展を阻害し、却て「人を呪はゞ穴二つ」のたとひの通り、吾れ人共に苦しむの結果に陥りつゝある事は、列國識者の既に充分知悉してゐる事でありませう。

一二七

1930. 1931年一月以降九月まで二十四ヶ國

輸出入貿易累計表

(百萬弗)

	輸 出		輸 入	
	1930	1931	1930	1931
二十四ヶ國總計	15,305.0	10,943.6	16,972.0	12,444.5
北米合衆國	2,952.5	1,841.7	2,401.3	1,618.6
加 拿 大	678.4	448.1	793.1	495.0
アルゼンチン	412.9	332.8	485.7	291.1
ブラジル	254.3	181.5	203.0	103.9
チリ	118.7	93.5	127.3	73.3
澳太利	194.0	138.9	283.1	225.4
白耳義	555.1	493.6	664.9	510.2
チエコ スロヴァキア	377.1	287.3	349.1	249.1
丁 抹	328.3	267.6	350.1	289.2
フィンランド	102.0	79.6	94.7	62.9
佛蘭西	1,280.6	917.5	1,537.3	1,308.2
獨逸	2,174.4	1,722.9	1,939.8	1,255.6
ギリシア	44.4	35.3	104.3	86.6
伊太利	475.7	389.5	687.3	479.0
和 蘭	532.4	409.7	753.4	584.5
諾威	141.7	85.6	213.9	167.7
波 蘭	207.2	162.3	193.1	129.5
瑞 典	308.2	212.8	331.9	231.2
英吉利	2,476.0	1,657.8	3,820.3	3,023.8
英領印度	739.7	452.1	536.2	384.7
セーロン	92.0	62.8	86.3	59.6
日本(臺灣を含む)	554.5	446.8	633.2	484.8
ニージーランド	178.3	130.6	160.9	92.9
南阿聯邦	126.5	93.6	220.8	187.5

今試みに世界主要國の貿易實數に就て、これら諸政策が如何なる影響を及ぼしたかを見ませう。

最近の米國商務省の週報に、同省統計局ジエー・ジエー・クラル氏の調査として右のやうな統計表が載つてゐましたから、こゝに御參考迄に御覽に入れます。

たゞこの表は惜しい事に、昨年九月迄の數字しか擧げてゐません。これはまだ多數の國から材料が集まらないので止むを得ない事と思ひますが、これでは爲替管理や貿易管理の影響がほんとは出て來てからの結果を見るわけには参りませんから、こゝに甚だ不十分ではありますが、日、英、米、佛、獨、五ヶ國の數字を擧げて、昨年十月から本年四月迄の結果を調べて見やうと思ひます。

バセンテージは、前年同期より何割減退したかを示すものであります。たゞこれだけの數字を見たのでは、適確な結論の出しやうがありませんが、併しそれでも關

1931年10月以降1932年4月に至る
主要五ヶ國貿易表

	輸 出			輸 入		
	1930 10月	1931 4月	1931 10月	1931 4月	1931 10月	1932 4月
日 本(百萬圓)	734		600	18	749	821 +10
米 國(百萬弗)	1,816		1,179	35	1,413	996 30
英 國(百萬磅)	305		259	15	536	487 9
獨逸(百萬馬克)	5,912		4,441	25	4,846	3,125 36
佛蘭西(百萬法)	21,450		14,043	35	28,810	19,021 34

〔註〕 +印は増加率

一三〇

税障壁の最も高いと云はるゝアメリカやフランスの輸入高が目に見えて減り、爲替及貿易管理の峻厳な獨逸の減り方は更にそれ以上である事がわかります。關稅政策や管理政策の極めて寛いイギリスや日本などは、これと良い對照を示してゐます。殊に日本の一割増加などは注意すべき現象ではありませんか。

輸出の方面に就て見ますと、アメリカ、フランス、獨逸などが際立つて減つて居りますが、これには色々の原因もありませうけれども、その主なる相手としてゐる國々に爲替、

貿易の管理國が多い事を考へて見ますと、その影響も並々ならぬものがあるやうに思はれます。

これは、極めて短期間に就て、而も僅か數ヶ國の實績に就ての觀察でありまして、甚だ粗雑な亂暴な推論でありますけれども、たゞ大凡の傾向だけは看取されるかと思ひます。

「附 録」

一、統制經濟主義の擡頭

岐路に立つ世界財界

世界の財界は、はてしなき不況の進行に、すつかり閉口してゐる。何とか局面打開の道があるならばと、之を望んでゐる。それは、金本位國も金本位停止國も同様である。昨年九月以來英國を始め、多くの國々が金本位を停止したが、それによつて注目するに足る景氣回復を齎らした國あるを聞かない。アメリカも最近インフレーション政策に、大馬力をかけ出したが、凡そその限度は想像するに難くない。

要するに、各國の爲す所は、恰も一本の樹木を大勢で育て、ゐるに等しい。幹の中程に、誰れの眼にもつくやうな、大きな、命取りの蟲が群りついてゐるのに、殊更にそれには眼を覆ふて、或るものは、ひたすら、その根に肥料をやり、又或るものは、枝葉に水を與へて、各自の受持場所だけの成育に努力してゐるやうなものである。本来ならば、皆が氣を揃へて、先づ蟲けらを片付けて、それから、樹木の育て方に就て相談すべきであるのに、彼等のなす所は、少しこの平凡な筋道を履んでゐないのである。賠償戦債問題の解決、金の偏在關稅競争の如きに就ても、何等施す術を知らぬのである。世界一流の政治家、財政家と云はるゝ連中も、これらの問題に就ては、全くでくの棒に等しい。嘗て松方幸次郎氏がパンフレット「何故吾々はこれ程馬鹿であるか」を知人に配布した事があるが、考へて見ると、理性の動物と自ら自惚れてゐる人類の、所謂理性なるものも、大したものではない事が分るではな

いか。個人として見る場合は、それ程でもないが、國家として、團體として動く場合には、この理性の力は殆どゼロであると云つて宜しい。

理性を離れた國家、理性を離れた人類は、どうなるかと云ふ感情と本能の支配を受ける感情は氣まぐれ者であり、本能は向ふ見すだ。主としての氣まぐれ屋と向ふ見すとによつて、リードされる國際關係が、理想通りに行かぬのは、それは當然の話した。

世界經濟の眞の恢復は、戦債及び賠償金の改訂、各國關稅戰の撤廢、金の偏在矯正、また根本問題としては、國際間の政治的、軍事的不安を除き、平和なる國際關係を樹立する事が緊要であり、殊に當面の通貨制度の建設のためには、世界各國の協調が必要とされ、世界中の理性は、之を求めて止まぬのであるが、而も各國の現實は、理性の要求とは、正反對の方向へ、方向へと動きつゝある。

經濟問題に就て之を見れば、世界不況の深化は、各國の對立感情を愈々尖鋭化し世界經濟から離れて、自己擁護のために鎖國經濟に走らんとして居り、又今日迄貨幣制度中、最悪の制度なりと信せられた不換紙幣制度に續々向ひつゝある如きは、そのよき例證ではないか。

世界の財界に於て、理性軍と感情軍とは、今二手に分れて、必死の抗争を續けてゐるが、兎角大勢は理性軍に不利の如く見へる。

統制經濟下に於ける貿易、金融、生産

右のやうに、國際關係が主として各國民の感情と本能によつて、支配される事になると、結果は果してどうなるか。政治的、經濟的諸懸案の圓滿なる解決不可能と云ふ事にならう。

世界經濟の行詰りは、愈々甚しく、八方塞りの不況状態は、各國を驅りて、自己生存の本能性を遺憾なく發揮せしむるに至るであらう。

それがために、國際間の關稅戰爭を愈々繁くし、一方が、爲替政策、ダンピング等の武器によつて戦ひを挑めば、他は爲替管理、輸入管理の如き方法を以て之に對抗し、一が稅率引上によつて臨めば、他亦逆手を以て之に應ずる事となる。

かくして、結局商品の國際性と云ふものは、次第に失はれて、有無相通じ、疎密相補ふと云ふ國際貿易の大道は全く破壊されてしまひ、その局、終に、各國は互に自國內だけで、總ゆる財貨の自給自足を圖ると云ふより仕方なくなる。そこで、この自給自足經濟となると、從來の吾々の經濟制度に、差詰めどう云ふ變化を與へるか。

今迄の經濟組織であれば海外への輸出を増加さす事が、大體に於て其の國の經濟

を確立する事になるので、各國は努めて、對外競争力を造るために、自國商品の生産原價を出來るだけ切下げて行かねばならなかつた。この切下の出來ないものは、假令今迄にどれ程の設備費を投じても、それは結局無駄に終つた、所が自給自足經濟となると、海外への競争力は、勿論考へなければならぬ事であるが、それと同時に、假令原價は少々高くついても、兎に角、自國で自給出來るものは、爲替引下とか、保護關稅とか、或は獎勵金とか、色々な方法で育て、行かうと云ふ事になる。それ故、例へば、砂糖とか、硫安とか、鐵とか云つたやうな、これ迄は、海外へは、原價高で思ふやうに輸出が出來ず、海外からは安價の競争で壓迫され勝ちであつたと云ふやうなものは、海外の壓迫を脱れて、内地の販賣が容易になるが、反對に、生絲、紡績と云つたやうな、主に海外輸出を目標としてゐたものは、可なり生産方法を變へなければならぬと云ふ事になる。而して自給自足經濟には、當然強力

な統制を伴はねばならぬ。現在の國際貿易にも多少の制限が設けられて居るけれども、結局個人的取引であるから、その間には殆ど何等の統一がない。輸入と輸出とのバランスが失はれても、國家の意思に反して個人は平氣で外國品を輸入するが、自給自足經濟では、かくの如き自由は許されない。國內の各種の産業に就ても需要と供給を調節するために相當なる統制が行はねばならない。

その外、金融制度に就ても、國內の配給制度に就ても、思ひ切つた變革と統制が行はれる事にならう。

勿論かやうな變化は、一般の人々にとつて、果して幸福を齎らすかどうかは、別問題として、兎も角、世界的情勢が之に向つて急轉回をなさんとしつゝある傾向は首肯せざるを得ない。

英國は永年の自由貿易主義の看板を棄て、保護貿易主義に轉向した。アメリカ

フランスは夙に高率關稅と資金引揚とによりて武装を固めてゐる。チエコ・スロバキア、ユーゴスラビア、ブラジル、濠州は輸入爲替取引に制限を置いてゐる。獨逸は、政府が外國爲替取引を抑制してゐる。その他輸入を制限し、又輸出貿易を官營とし、或は外國爲替取引を抑制する等の現象は、金本位維持國たると停止國たるとを問はず、殆ど世界的風潮となつてゐる。

ツヴェット・ロシアの如きも、今日では、國社會主義の建設を主張して、その豊富なる資源の上に、自給自足的な一大國民經濟を確立せんとしてゐる。三民主義によつて、國民的に眼醒めて來た支那亦然りである。

大勢は斯くの如くである。この事實がよいか、惡いかか論議しても、最早や、どうにもならぬのである。吾々はこの世界的情勢を直視する外はない。かゝる情勢を誘導するに至つた原因は、世界不況の深化であると云ふに異論はない。

い。併し更に遡つて探れば、源泉は、自由、無統制經濟の詰行り、大亂脈の反動に求めねばならぬ。

自由放任主義は修正される

誰れも知る通り、十九世紀の産業は、自由放任主義によつて、大發展を遂げた。併し二十世紀に入つてからは、前世紀の自由放任の食ひ荒しが、鼻について來た。英國の新自由主義の學徒、ジエー・エム・ケーンズ氏が、かの自由放任主義の發祥地マンチエスターに於て、大戦後極端に左前になつたランカシャーの紡績業者に對し「その局面打開策は、諸君の自由放任主義を棄て、勞資聯合の協議機關設立以外にない」と説法して、一同をあつと云はしたのは、數年前の話であるが、前世紀の食ひ荒しに對する組織清算の必要は戦後夙に痛感されてゐた所である。併し、傳統は

俄かに變へる事が出来ず、僅かにカルテル、トラストの形式によつて彌縫を試みたが、この程度の事では、一小部分の産業調節に限られ、世界經濟にその影響を及ぼすに至らなかつた。

こゝに於て乎、來るべきものが遂に來たのである。動、反動の原則からして、統制經濟の出現は必然であらうかと思はれる。

二、關稅戰爭の行衛をさぐる

關稅戰爭熾烈

戰爭で擴張された生産設備を戦後に於て、有効に利用するには、多量生産をやるのが最も近道であつた。其結果は生産過剰となり、そこへ、有り餘る物資が、外國

から更に廉價で殺倒して來たのだから、經濟界、產業界は堪らない。勢ひ關稅で防禦しなければならなくなつた。

殊に一九二九年秋、米國株式市場の慘落を動機として、不景氣風が世界各國に染み渡るや、自國産業保護のために、米國は一九三〇年六月率先して關稅引上を斷行した。爾來世界各國中これに倣ふもの續出し、これがまた更に世界不況深化の因をなした。

而も、財界の不況で各國を通じて歳入は減少し、多額の赤字を生ずるや、單に自國産業の保護を目的とする外、赤字補填のためにも關稅増徴を必要とし、益々稅率引上を助長した。

更に、一九三一年秋、英國が金本位制を停止すると共に、關稅引上見越の輸入を防止するため、緊急關稅を設けて従價十割以内の關稅を賦課するに至つたが、これ

が又諸國を刺戟し、先づ佛蘭西が英國その他の金本位停止國からの輸入を防遏するため、最高一割五分の臨時附加税を課し、また別に一般諸國からの輸入品に對し、輸入附加税を課した。獨逸も亦大統領令を以て、プリーユーニング内閣に關稅賦課の權を附與した。その他續々之に倣ふもの現はれ、不幸にして、世界は今や一大關稅戰爭の渦巻を起さんとしてゐるのである。

關稅戰は武力以上に慘酷

凡そ戰と名のつくもので、悲惨でないものはないが、今世界に渦巻く關稅戰も、血こそ流さないが各國の産業を壓迫し、數千の失業者を出し、消費者の負擔を不合理に過大ならしむる點に於て、或意味に於ては、武力による戰爭以上の悲惨事だとも云へるのである。殊に最近の關稅戰は自國の産業を保護する以外に、外國のダン

ピングに對して、國內市場を保護し、内地消費者の犠牲に於て、逆に外國市場を侵略せんとする、兵家の所謂攻撃防禦を眼目する傾向となつて居るから、關稅陣が、堅固になればなる程、その消費者の負擔が大きくなり、多くの犠牲を拂はされると云ふ結果になつて來る。

然らば内地で手厚い保護を受け、海外にダンピングする事の出来る産業は、メキ／＼海外に發展して行くかと云ふに、早速外國の報復關稅に會つて、容易に効果が擧つてゐない。

これは何れの國でも、ダンピングを行ひ得る程の産業は、その國有數の大産業である。所が各國がお互に目の敵にしてゐるものは、その有力産業にあるのだから、關稅陣の着弾距離に入るや否や、早速たゞきつけられる。ダンピングの目的を達し得ないと云ふ事になる。

これでは、世界の大産業は共倒れになる外はない。既に繊維工業、製鐵業、その他の大産業中破綻に瀕するものは枚擧に暇ない。世界の關稅競争は、こゝに全く行詰りを暴露して居る。各國は既に充分之を自覺してゐる。この頃アメリカの民主黨が世界に向つて、關稅戰の休止提案を試みやうとしてゐるとの報導あるは、這固の消息を物語るものであらう。その主張者が、これ迄は何時も、關稅引上の尖端を行つてゐたアメリカであるだけに、特に興深いものがある。

だが、こいつがしかく容易に行はれるだらうか。一九二七年の關稅休戰協定が如何なる結果に終つたか。賠償金支拂のためにする獨逸の必死の賣込運動に對しても冷然關稅率引上を以て應へる程の我利我利亡者の列國が、今日の政治的、經濟的情勢の下に、簡單にこの提案に應諾するとは思はれない。「鹿追ふ獵師山を見ず。」大勢の赴く所、結果の如何を問ふ暇なく行きつく所迄行くであらう。

然らば何れの方向に向はんとしてゐるか。

關稅戰のたどる二つの道

それは恐らく、二つの道行きを見せるであらう。一は今日の傾向を更に進めて、生産方法の發明、改良により、外國で生産されるものよりも、より優秀な物資を、より廉價に生産する方法の案出であつて、之により、外國の關稅陣を乗り越えて競争する事を意圖するであらう。或は生産の種類を多少變更して、關稅陣を突破し易い姿となして侵入するであらう。

だが、今日の情勢では、この方法も長くは續かない。第二の手段は、國內市場の開發である。大量生産が行詰つた反動として、大量生産以外の方法を見出さんとする。現に各主要産業によつて行はれてゐる生産制限はその現はれであるが、この傾

向が今後關稅戰の激烈なるにつれて、愈々旺んになるであらうと思はれる。要するに、保護關稅の蔭にかくれて自給自足主義の鎖國方針に向はんとするものである。今日の國際的情勢と國民的感情から見れば、恐らくこれは自然の歸結であらうと思はれる。

これによつて、各國は救はれるであらうか。

經濟界の原則からすれば、無論自給自足主義の鎖國方針では、どうしても、今日の産業は發展しない。積極的に輸出に進出して、販路を求めなければ、現代の産業は捌口に困つて自滅する。今日の生産事業は、自轉車乗りと同じ事である。常に進んでゐなければ、倒れてしまふ。こつちから進まなければ、直ぐに競争者に倒されてしまふ。今日の産業の悩みは、こゝにある。進むに道なく、しりぞくも亦難い。

これらの困難を打開し、市場獨占と大量生産の利益を併せ收むる方法として、國

際カルテルが期待された事があり、現に之を懲通してゐる向もあるが、今日の狀態は到底その發展を許しさうもない。

勞動運動先驅者は「全世界のプロレタリア、團結せよ」と絶叫し、階級闘争の止むべからざるを説いた。現にマルクス・ボーイは之を階級闘争のスローガンとして労働者の奮起を求めてゐる。然らば、世界の労働者は、今日の不況深化、失業者激増に刺戟されて、このスローガンの下にきゆう然として集りつゝあるかと云ふに、事實は決して然らず、不況深化は却て祖國産業の護るべきを知らしめ、自國産業の維持のためには、他國労働者と手を切る事も躊躇せしめざるに至つた。

鎖國經濟の氣運濃厚

かくして世界の産業は、科學の命ずる所も、産業自身に内在する自然的傾向も無

視して、眼かくしされた馬車馬の如く、たゞ自己防衛の念にかられて、鎖國の方針に出でんとして居り、これに伴ふて、餘剰生産物の海外ダンピングは、勢ひ猛烈ならんとして居る。従て大勢の赴む所、國內的には鎖國方針、對外的には餘剰生産のダンピング、而して之れが防衛策として、國際間の關稅戰爭は愈々熾烈を助ふるものと見なければならぬ。

嘗て大谷光瑞師が國際聯盟に於て、滿洲問題が紛糾し、經濟封鎖が論議されるに至つた當時、大阪毎日新聞紙上に大論説を掲げて、「日本の主要生産物は生絲であるから、經濟封鎖となれば、棉花や羊毛を輸入する代りに、國民が絹の着物を着、絹の洋服を用ゆるれば宜しく、滿洲を手に入れ、加ふるに酒のために米をつぶす事になくなれば、食糧に困らぬばかりか、逆に今迄のやうに無くもがなの品物が這入つて來ないから、日本は經濟封鎖されてゐる間に、非常な富國になる。」と云つたやう

な議論をされた。確かに一見識であり、面白くはあるが、併し之れは、異常事變の際の止むを得ざる場合の覺悟を教へたものであつて、永久的國策として、求めて、鎖國方針に出づべきでない事は勿論である。

だが、今日の情勢は、吾等の求めると、求めざるに拘らず、大勢をこゝに導かんとする氣運が濃厚であり、何者の障礙をも許さぬ如くである。

三、國際協調回復の順序

鎖國經濟の矛盾

今日の自然科學の發達と、産業技術の進歩とは、最早經濟單位を一國內に限る事を不合理とし、世界全體を一つの經濟單位に組立てる事を要求してゐる。今日の列

國は如何に腕いても、所詮は益々相互保存に緊縛されなければならぬ運命にあるけれども近年の世界の動きを見るに、この明瞭な運命に抗して、無理にも世界的依存關係から獨立しやうと焦慮してゐるやうである。

殊に、一般不況の深化につれて、國際協調に基いて解決せんとする種々なる提案が試みられたが、何れも容易に行はれない事が、明瞭となるに及んで、各國の排他的政策は愈々露骨となり、他の犠牲によつて、自らを救はんとする絶望的努力が拂はれるに至つた。

こゝに英國の十二月宣言が生れ、ビーヴアルツク、ロザミア兩卿を首班とする統一帝國黨運動が起り、その他伊太利のファシズムは云ふも愚か、獨逸のヒットラー一派の主張、獨逸關稅協約の精神、米國、印度、その他各國の關稅障地の増築等、總てその軌を一にするものであると思ふ。

この中、英帝國の統一運動は、各屬領が叛旗をひるがへしたので物にならず、獨逸關稅協約は、佛蘭西の一喝に會ふて雲散霧消した。今日の情勢は地方的經濟安定も多易くは行はれぬ所迄來て居るのである。

こゝまで事態が迫つては、最早國際協調への進展は、不可能でなくとも、決して容易な事ではない。筆者は人類の光輝ある將來を信ずるものであるが、今日の情勢から推定する限り、列國が世界經濟の繁榮に關し、誠意ある協調を齎らすに就ては多大の疑ひを抱かざるを得ない。

列國內部修正に眼を轉ず

併し乍ら、筆者は信ずる、人生緩あれば急あり、張あれば弛あり、盈虚、干満ありで、自由の行過ぎには、反動あり、動反動ありて進展して行くものである事を。

列國は、あまりに無統制、無秩序なりし過去の慘害にこりて、今やまなこを内に轉じ、内部を修正し、夫々の制度、文化を整頓せんとする、氣運に向ひつゝあるは否定すべからざる事實である。無論國際對立の諸情勢に刺戟せられた現象であり、從て今後尙その傾向を深くする可能性ありと思はれるが、内部の修正一巡する時、そこに現はれ来る國家は、必ずや從來に比し、その産業に於て、制度、文物に於て遙かに、統制あり、特色あるものたるべきは想像に難くない。

この内部修正は、主として何れの部門に加へらるべきか、それは各國夫々異なるであらうが、大綱みにして論ずれば、先づ自由放任經濟を槍玉に擧げるであらう。自由放任政策は、既に弱食強食の域に入り、曩日の潑刺たる自由を意味するものではなくなつた。今日の自由は、最早弱者制壓の別名にしか過ぎなくなつた。そこに、勞働に、租税に、その他各種の社會制度に、今後大いなる修正が要求されるは當然

である。

吾々は別に合理化運動に修正あるべきを説いたが、それは要するに、營利主義にのみ馳る合理化を修正して、國民全體の利益を目標とすべきを説いたものであつた。能率増進生産費低下最も有利な地位に於ける工場設置、而して之に反するものゝ没落を否定したものでない事は勿論である。政黨的關係その他よりして、存在の價値なき企業團體が、國民の膏血によつて、保護救済され、眞面目な事業家を壓迫するが如き不合理は、何者にもまして排撃されなければならない。

販賣政策に就ては、内地にありては、中間生産階級の淘汰によつて、生産消費の密接を計ると共に、對外貿易にありては、我利々々主義の賣込競争によつて、價格の統制を亂し、相手商人に迷惑を及ぼし、却て不信用を來すが如き無統制振りは嚴重に管理されねばならない。

以上は單に一例に過ぎぬが、かゝる修正は各國に於て行はれるであらう。

自然は飛躍をなさず

その結果、國際協調は、直ちに回復するかと云ふに、それは極めて望み難い。アルフレド・マーシャルは、好んで「自然は飛躍をなさず」と云ふ言葉を引いた。經濟生活にあつては、進化は徐々である。進歩は、恰も人類の忍耐をテストするが如く悠々としてゐる。それは災害を眼前に見るも急がうとはせぬ。尤も或る場合には進歩は著しい事がある。けれども、いつ見ても、それは鉛の如き顔をし、鈍重な歩みを辿りつゝある。

然らば、今日行詰りつゝある經濟諸關係が、内部修正を一巡したる後に於て、如何なる經路によりて、國際提携の實を擧ぐる事が出来るか、これを簡單に述べて見

やう。それには四つの順序があるやうである。

協調回復の四つの順序

領國經濟の不合理不便は、第一、通商條約の更改を刺戟するであらう。國際關係の密接なる兩國に於ける關稅引下げは相互の互讓によつて行はれ、兩國間の産業に對し、速かな利益を齎らすに至るであらう。

第二、かくして、兩國間の有無相通が圓滑に行はるゝに至れば、次には同種産業の抗爭を避くるために、國際的トラスト、カルテルの出現を見るに至るであらう。即ち原料品の獲得、販賣市場の爭奪のためにする無益の競争を避くるために、販賣地域の協定となり、價格の協定となり、生産額の協定となつて現はれるであらう。

第三、次に、大戦後一つの氣運となりつゝある、各國金融業者の會合、政治家の

國際會議、労働者の連繋が、更に新たなる力と意義を以て擡頭し來るであらう。殊に利にさとき金融業者及び事業家の間に於て、この氣運は驚くべきほど熱してゐたのであるから、國際商業會議所や國際決済銀行その他の活動を通じ、金融家事業家によりて、先づ國際的協力の一新時代が打開さるゝは想像に難くない。

第四、最後に擧げなければならぬのは、國際聯盟の活動である。これこそ眞先に擧げなければならぬものかも知れない。國際調和の原動力として、歩一步撓まざる努力を續け、諸國の幣制確立、財政行詰り濟救、資金の流通、關稅休日、その他あらゆる經濟提換に就て、常に先頭を切つて斡旋これ努むるものは、國際聯盟であつた。やがて國際對立融和の氣運動くに當つて先頭に立つて、之をリードするものゝ國際聯盟であるべきは、云ふまでもあるまい。

かくして行詰れる鎖國經濟は、再び門戸を開いて、提携を見るに至るであらうと

思ふ。たゞし、それは眞に牛歩よりも尙ほ遅々たるものであり、幾多の障礙に遭ひ多くの歲月を要するものであらうと思はれる。

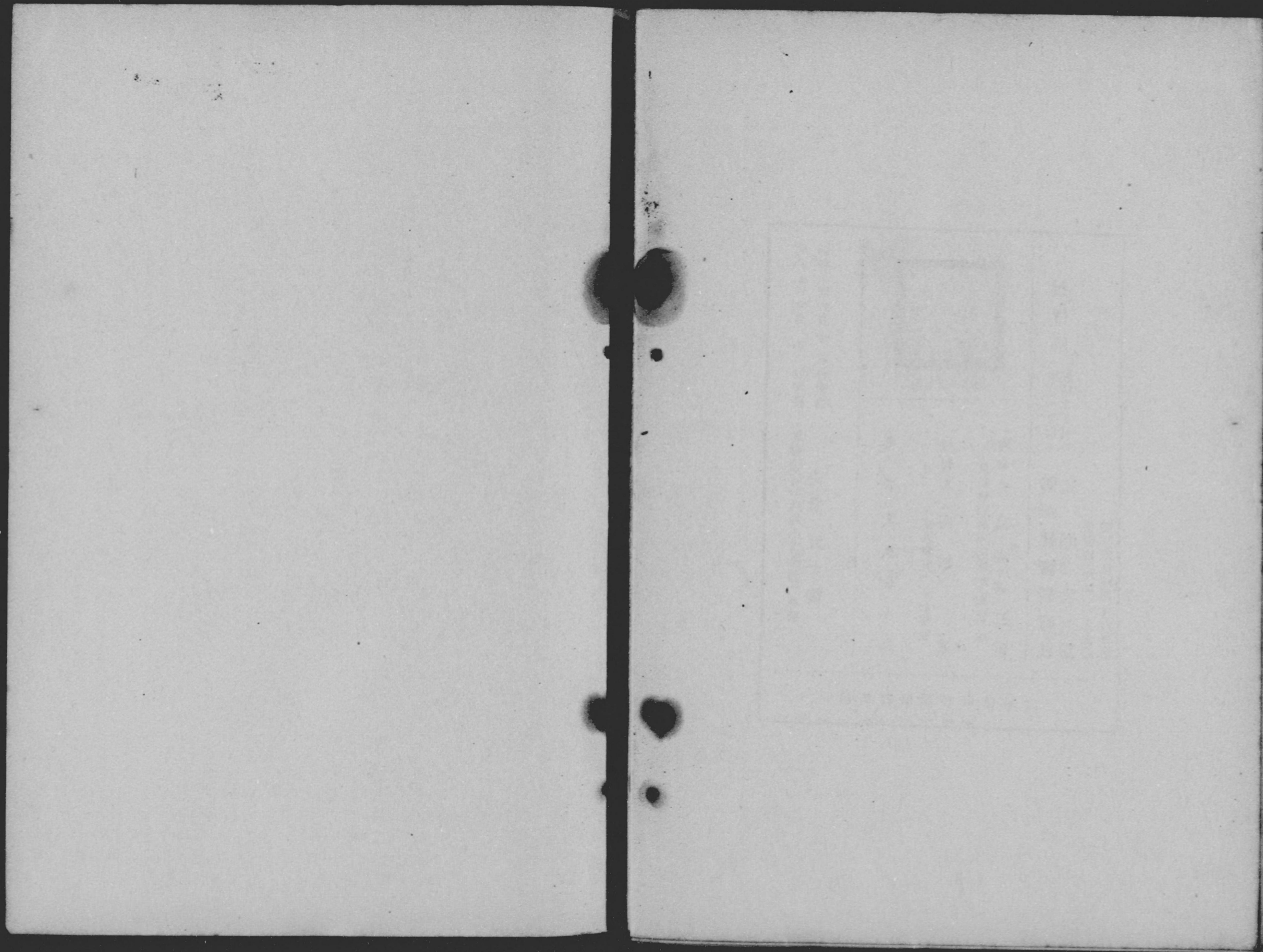
昭和七年六月十日印刷
昭和七年六月十五日發行
「爲善管理の運用と其影響」奥附
定價 五十錢

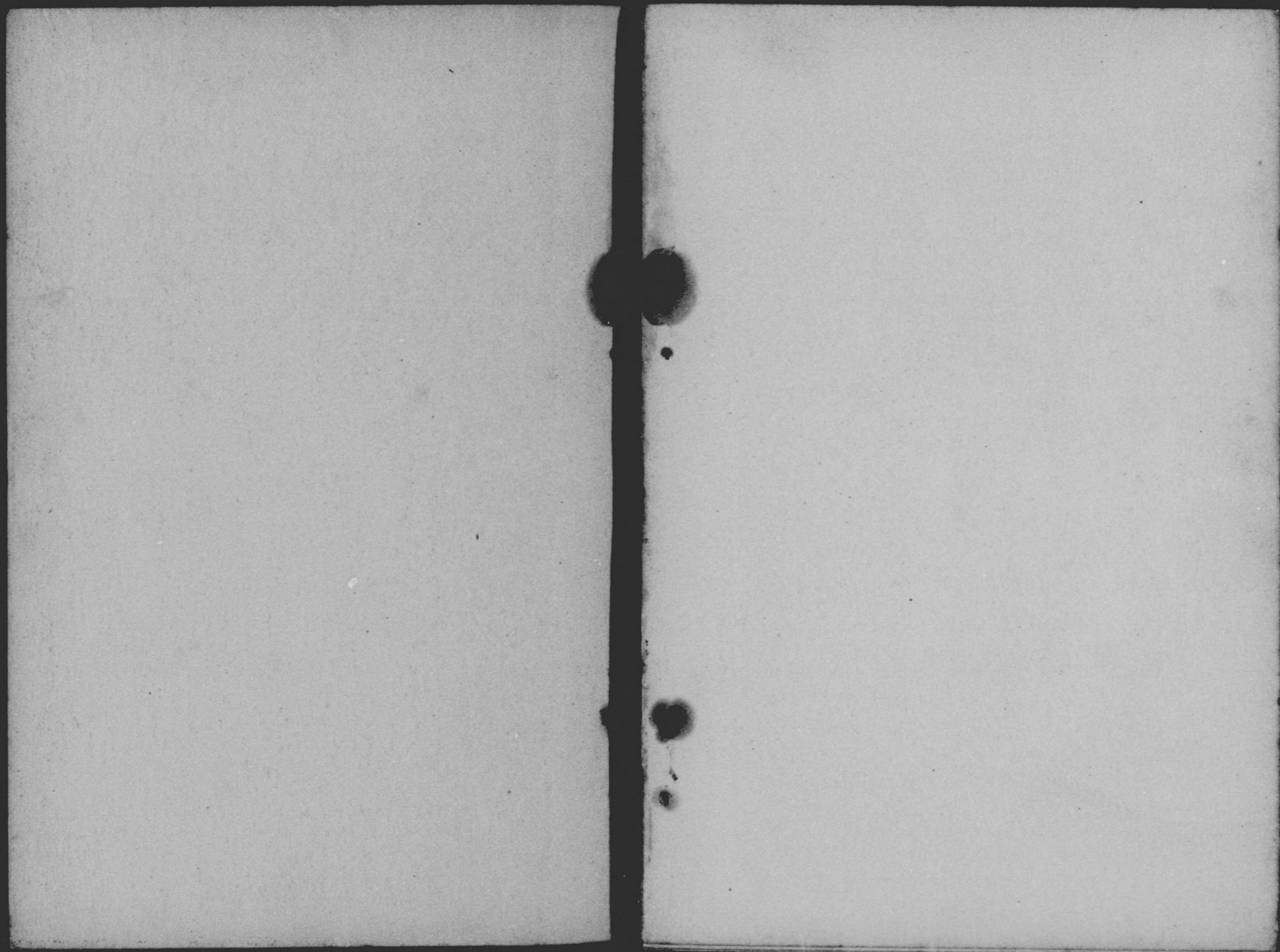


著者 大久保一路
東京市京橋區橫町二ノ七番地
發行人 高瀬忍
東京市京橋區高代町四番地
印刷者 高島幸三郎

發行所 東京・京橋
橫町二丁目
國際經濟新報社
高瀬書房
電話京橋(53)一九九〇
接替東京五四九九三番

國際經濟新報社印刷部





¥.50